

横浜国立大学大学院
環境情報学府

履 修 案 内

人工環境専攻
自然環境専攻
情報環境専攻

平成31年度（2019年度）入学生用

目次

I	横浜国立大学大学院環境情報学府の概要	- 3 -
1	博士課程設置趣旨	- 3 -
2	専攻と教育プログラム	- 3 -
II	科目の履修・成績等について	- 6 -
1	授業の開講方法	- 6 -
2	履修登録関係	- 6 -
3	成績関係	- 7 -
4	試験週間要領	- 8 -
5	短縮修了について	- 8 -
6	副専攻プログラムについて	- 8 -
7	英語スキルアップ研修プログラムについて	- 8 -
8	履修登録手続き流れ図	- 9 -
III	環境情報学府の指導教員（平成31年4月現在）	- 10 -
IV	履修基準及び科目	- 11 -
1	前期課程	- 11 -
2	後期課程	- 26 -
V	社会人学生の履修等に関する特例について	- 33 -
1	長期履修について	- 33 -
2	修学について	- 33 -
3	履修について	- 33 -
VI	教務関係諸手続	- 34 -
1	証明書の発行について	- 34 -
2	休学、復学、退学、他大学受験について	- 34 -
3	諸届出について	- 36 -
VII	教員連絡先一覧	- 37 -
1	専任教員（50音順）	- 37 -
2	非常勤講師	- 40 -
VIII	地図	- 41 -

平成31年度（2019年度）学事暦 <履修案内用>

学期・ターム・月		日	月	火	水	木	金	土				
春学期	第1ターム	4月		1	2	3	4	5	6	4/2 (火) 入学式		
			7	8	9	10	11	12	13	4/3 (水) 英語プレイスメントテスト (1年生のみ)		
			14	15	16	17	18	19	20	4/5 (金) ~8/2 (金) 春学期 (セメスター科目)		
			21	22	23	24	25	26	27	4/5 (金) ~6/6 (木) 春学期前半 (第1ターム科目)		
			28	29	30					4/5 (金) ~4/19 (金) 履修登録期間 (土日除く)		
	5月				1	2	3	4		4/30 (火) ~5/2 (木) は授業を行わない		
		5	6	7	8	9	10	11		5/6 (月) は授業を行う (祝休日開講日)		
		12	13	14	15	16	17	18		5/7 (火) ~5/9 (木) 履修登録確認・訂正期間		
		19	20	21	22	23	24	25		5/13 (月) ~5/17 (金) 履修登録キャンセル期間		
		26	27	28	29	30	31			5/18 (土) ~5/19 (日) 清陵祭 (5/18 (土) は準備を含む)		
	第2ターム	6月							1		5/31 (金) ~6/6 (木) 第1ターム試験期間 (セメスター科目は通常授業)	
			2	3	4	5	6	7	8		6/7 (金) ~8/2 (金) 春学期後半 (第2ターム科目)	
			9	10	11	12	13	14	15		6/24 (月) ~6/28 (金) 履修登録キャンセル期間 (第2ターム科目)	
			16	17	18	19	20	21	22			
			23	24	25	26	27	28	29			
		7月			1	2	3	4	5	6		7/15 (月) は授業を行う (祝休日開講日)
			7	8	9	10	11	12	13			
			14	15	16	17	18	19	20		7/26 (金) ~8/2 (金) 春学期・第2ターム試験期間 (8/2 (金) は試験の予備日)	
			21	22	23	24	25	26	27			
			28	29	30	31					8/3 (土) ~9/30 (月) 夏季休業期間 (第3ターム)	
	第3ターム	8月					1	2	3			
			4	5	6	7	8	9	10			
			11	12	13	14	15	16	17			
			18	19	20	21	22	23	24			
25			26	27	28	29	30	31				
9月			1	2	3	4	5	6	7			
		8	9	10	11	12	13	14				
		15	16	17	18	19	20	21				
		22	23	24	25	26	27	28				
		29	30							9/13 (金) 秋季卒業式・修了式 (予定)		
秋学期	第4ターム	10月			1	2	3	4	5	10/2 (水) 秋季入学式 (予定)		
			6	7	8	9	10	11	12	10/7 (月) ~12/12 (水) 秋学期 (セメスター科目)		
			13	14	15	16	17	18	19	10/7 (月) ~12/3 (火) 秋学期前半 (第4ターム科目)		
			20	21	22	23	24	25	26	10/7 (月) ~10/18 (金) 履修登録期間 (土日除く)		
			27	28	29	30	31			10/14 (月) は授業を行う (祝休日開講日)		
		11月							1	2	10/23 (水) ~10/25 (金) 履修登録確認・訂正期間	
			3	4	5	6	7	8	9		11/2 (土) ~11/4 (月) 常盤祭 (11/2 (土) は準備を含む)	
			10	11	12	13	14	15	16		11/5 (火) ~11/8 (金) 履修登録キャンセル期間	
			17	18	19	20	21	22	23			
			24	25	26	27	28	29	30		11/27 (水) ~12/3 (火) 第4ターム試験期間 (セメスター科目は通常授業)	
	第5ターム	12月		1	2	3	4	5	6	7	12/4 (水) ~2/12 (水) 秋学期後半 (第5ターム科目)	
			8	9	10	11	12	13	14			
			15	16	17	18	19	20	21		12/16 (月) ~12/20 (金) 履修登録キャンセル期間 (第5ターム科目)	
			22	23	24	25	26	27	28		12/25 (水) は金曜日の授業を行う (授業振替日)	
			29	30	31						12/26 (木) ~1/3 (金) 冬季休業期間	
		1月				1	2	3	4			
			5	6	7	8	9	10	11			
			12	13	14	15	16	17	18		1/17 (金) ~1/19 (日) 大学入試センター試験休業日 (1/18及び1/19は大学構内入構不可)	
			19	20	21	22	23	24	25			
			26	27	28	29	30	31				
	第6ターム	2月		2	3	4	5	6	7	8	2/4 (火) ~2/12 (水) 秋学期・第5ターム試験期間 (2/12 (水) は試験の予備日)	
			9	10	11	12	13	14	15		2/13 (木) 英語統一テスト (英語LR) 試験日	
			16	17	18	19	20	21	22		2/14 (金) ~3/31 (火) 春季休業期間 (第6ターム)	
			23	24	25	26	27	28	29		2/25 (火) 前期日程試験 (大学構内入構規制)	
3月			1	2	3	4	5	6	7			
		8	9	10	11	12	13	14		3/12 (木) 後期日程試験 (大学構内入構規制)		
		15	16	17	18	19	20	21				
		22	23	24	25	26	27	28		3/24 (火) 卒業式・修了式 (予定)		
		29	30	31								

28 試験期間 29 試験期間 (予備日)
 英語統一テスト・プレイスメントテスト
 授業振替日
 祝休日開講日

I 横浜国立大学大学院環境情報学府の概要

1 博士課程設置趣旨

21世紀において、世界全体が直面しており、その対応が求められている課題は、持続的に発展する安全で快適な社会の実現、すなわち「安心・安全な持続可能社会の創生」であるとされています。環境に対する捉え方においては、数多くの分野の関わりが重要であり、分野の枠組みを越えた俯瞰的な知識の重要性が増しています。

上記に関わる社会的課題を解決するために、環境情報学府では「環境」と「情報」を基軸に、安心・安全な持続可能社会の創生を目指して、学際的な文理融合・異分野融合の教育研究を行います。その基軸の1つである「環境」を次の3つの側面が不可分に重なりあったものと捉え、それぞれに対応する専攻を置いています。

- 人工環境 ヒトとモノが作る環境
- 自然環境 自然が提供する環境
- 情報環境 情報が作り上げる環境

もう1つの基軸である「情報」については、狭義の情報科学や情報工学分野にとどまらず、広く情報学の立場から環境情報学府の全分野を貫くものと考えます。

環境情報学府では、前述の3つの環境の相互作用が生み出す情報に基づき、理系・文系の枠を越えて、新たな社会的価値を創生し、様々な分野で、安心・安全な持続可能社会の構築に貢献できる人材を養成します。更に、個々の専門分野に特化した知識や技能を備えつつも、分野を越えたコミュニケーションの行える力量をもった人材の育成を実現します。

博士課程前期においては、持続可能な社会及び自然環境、先端的な情報学に関する文理融合教育を実践し、リスク共生学の研究成果に基づいた知識や技術をイノベーションに繋げて社会で活躍できる高度専門職業人を育成します。博士課程後期においては、更に高度な専門教育及び分野横断的かつ文理融合教育と、自らの研究活動を通して、環境系・情報系・人文社会系に広く関わる課題を発見及び解決し、理系・文系の枠を越えた新たな社会的価値を創生することで、安心・安全な持続可能社会の構築に貢献するとともに、その分野を牽引できるリーダー的な人材を育成します。

2 専攻と教育プログラム

環境情報学府には、人工環境専攻、自然環境専攻、情報環境専攻の3つの専攻があり、各専攻には、それぞれ3つの教育プログラムがあります。教育プログラムは、各専攻において取得する学位の種類に応じて設定された授業科目（以下「科目」という。）の履修の仕方であり、履修可能な科目群と修了に必要な単位が定められています。各学生は、入学時に、履修する教育プログラム及び取得する学位を定めます。教育プログラムは、それぞれの学位を取得した人材がどのような専門性を持ち、どのような知識と技能を修得しているのかを明確に示すために設定されています。

博士課程前期

専攻名	教育プログラム（取得できる学位）
<p>人工環境専攻 人工的な構造物によって構成される都市や産業プラントに加え、そこで暮らす人々の営みや地域社会との関係までを視野に入れ、ヒトとモノによって作られる環境である人工環境において持続可能社会を創生する際に必要な安心・安全を確保するための先端的かつ実践的な工学的な技術に加え、それを社会実装する上で解決すべき問題などを探求できる人材を育成する。</p>	<p>安全環境工学プログラム(修士(工学)) 都市や産業プラント、インフラ、エネルギーステーションなどの設計や災害時の対策や避難経路の確保や速やかな復旧など、安全工学的な視点で安心・安全を検討できる知識と技能を備えた人材を育成する。</p>
	<p>環境学プログラム(修士(環境学)) 安全工学的な技術を社会実装するために、これらの技術に関する十分な知識に基づいてリスクを評価し、法制化や政策立案へとつなげていくことのできる人材を育成する。</p>
	<p>社会環境プログラム(修士(学術)) 人工環境の中で暮らす人々の営みに注目して、企業経営や自治体の在り方、福祉や健康にも配慮して、安心・安全を考える人材を育成する。</p>
<p>自然環境専攻 人間社会を持続可能なものにするためには、その基盤となる自然環境の持続可能性や安全確保に関する知見が必要である。生命環境の利用・保全、中長期的な生態系の持続可能性のみならず、地球史的な環境の変化についての理解から地域住民との関わりまでを視野に入れた知識と技能を修得した人材を育成する。</p>	<p>生態学プログラム(修士(環境学)) 私たちを取り巻く自然環境の保全、維持、回復を考えるためには、もとより生態学・生命科学の知識が重要である。この教育プログラムでは、自然との共存を図りながら、地域社会や世界の持続可能性を確保するために必要な生態学の知識と技能を修得した人材を育成する。</p>
	<p>地球科学プログラム(修士(理学)) 近年の激化する気候変動、それに伴う大災害や地震など、私たちの環境の安心・安全を根本から覆すような出来事も多く、激変する自然環境に対して地球科学・生命科学の理解とそれらに基づいた対策を検討する必要がある。この教育プログラムでは、その対策に寄与できる科学的な知見に精通した人材を育成する。</p>
	<p>環境学術プログラム(修士(学術)) Future Earth 構想の中で主張されているように、地球規模の環境問題は生態学、生命科学、地球科学の研究者だけで解決できることではなく、様々なステークホルダーも取り込んだ超学際的な研究が必要である。この教育プログラムでは、生態系を守るための法制度や地域住民との関わりなどにも配慮した自然環境管理の在り方を構想・提案できる人材を育成する。</p>
<p>情報環境専攻 持続可能社会における安心・安全を確保するためには、私たちを取り巻く情報の在り方、つまり「情報環境」に目を向ける必要がある。情報環境に関して、先端的な情報技術や情報システムのセキュリティのみならず、大量の情報に向き合う人間の有り様に対する理解や数理的なデータ解析の方法にも精通した人材を育成する。</p>	<p>情報学プログラム(修士(情報学)) IoT や AI など、情報環境を作り上げる先進的な技術や情報セキュリティ、情報システムを活用するツールなどを開発できる知識と技能を備えた人材を育成する。</p>
	<p>数理科学プログラム(修士(理学)) 情報環境の中で日々蓄積されていくビッグデータの解析を行うためには、従来の統計学に加え、現代数学の手法にも精通した人材が重要であると言われている。この教育プログラムでは、そのような現代数学を中心に多くの数理科学的手法を修得した人材を育成する。</p>
	<p>情報学術プログラム(修士(学術)) 情報技術において不可欠な言語処理の原理を提供する理論言語学や、人工環境・自然環境における各種の現象を明らかにする数理シミュレーションなど、多分野との関連を見据えた情報学・数理科学を活用できる人材を育成する。</p>

博士課程後期

専攻名	教育プログラム (取得できる学位)
<p>人工環境専攻 産業プラント、インフラ、地域社会など、持続可能社会における安心・安全を確保するための工学的技術やそれを社会実装するための方法に関する先端的な知識と技能を備えた上で、様々な専門分野の知見やステークホルダーにも配慮して、社会における安心・安全を確保する新しいシステムやサービスを生み出し、自らの専門分野を牽引していける人材を育成する。</p>	<p>安全環境工学プログラム(博士(工学)) 都市や産業プラント、インフラ、エネルギーステーションなどの設計や災害時の対策や避難経路の確保や速やかな復旧、更には新技術の推進など、人工環境における安全を確保するための工学的な高度専門的知識を有し、先端的な研究を行える人材を育成する。</p>
	<p>環境学プログラム(博士(環境学)) 人工環境と社会環境に配慮した科学技術の社会実装や法制化に関する高度専門知識を有し、人がつくり出す環境による汚染や課題等の実態やその影響などに関する先端的な研究を行える人材を育成する。</p>
	<p>社会環境プログラム(博士(学術)) 社会環境に関する高度専門知識を有し、人工環境の中で暮らす人々の営みに注目するとともに福祉や健康にも配慮した企業経営や自治体の在り方などについて、先端的な研究を行える人材を育成する。</p>
<p>自然環境専攻 人間社会を持続可能なものにするためには、その基盤となる自然環境の持続可能性や安全確保に関する高度で専門的な知見が必要である。生命環境や生命現象の探求・利用、生態系の中長期的な持続可能性の探求とその展望、地球史的な環境変化や地球深部までも含めた地球の高度な理解、更に自然環境と地域住民との社会的関わりなどの探求などを基礎とし、人と自然の関係における問題点を高度な専門性に立って考察し、その解決策を提示できる専門知識と専門技能を修得した人材を育成する。</p>	<p>生態学プログラム(博士(環境学)) 私たちを取り巻く自然環境の保全、維持、回復を考えるためには、もとより生態学や生命科学の高度な専門知識が必要である。この教育プログラムでは、自然との共存を図りながら、地域社会や世界の持続可能性を確保するために必要な生態学を中心とし生命科学や地球科学の専門性をも取り込んだ高度な知識と技能を修得した人材を育成する。</p>
	<p>地球科学プログラム(博士(理学)) 近年の激化する気候変動や多発する大地震に伴う大災害など、私たちの環境の安心・安全を根本から覆すような出来事が多発し、これらの激変する自然環境に対して地球科学や生命科学の高度な理解と生態学をも取り入れた、多様な専門知識に基づいた自然現象の探求を行う必要がある。この教育プログラムでは、その探求に寄与できる高度な科学的知見に精通した人材を育成する。</p>
	<p>環境学術プログラム(博士(学術)) Future Earth 構想の中で主張されているように、地球規模の環境問題は生態学、生命科学、地球科学の研究者だけで解決できることではなく、様々なステークホルダーも取り込んだ超学際的な高度な研究が必要である。この教育プログラムでは、生態系を守るための法制度や地域住民との関わりなどにも配慮した自然環境管理の在り方を、高度な専門的知見に基づいて探求・構想・提案できる人材を育成する。</p>
<p>情報環境専攻 持続可能社会における安心・安全を確保するためには、私たちを取り巻く情報の在り方、つまり「情報環境」に目を向ける必要がある。情報セキュリティ、IoT、AI、ビッグデータ解析など、情報技術と数理学に関する先端的な知識と技能を備えた上で、「情報」が生み出す新しい社会的な価値と意味を理解し、それを現実社会におけるシステムやサービスの創出につなげ、更に新しい情報技術や数理科学的解析手法を開発し、自らの専門分野を牽引していける人材を育成する。</p>	<p>情報学プログラム(博士(情報学)) IoT や AI など、情報環境を作り上げる先進的な技術や、情報セキュリティ、情報システムを活用するツールなどの開発に関する高度専門知識を修得し、先端的な研究により自らの専門分野を牽引していける人材を育成する。</p>
	<p>数理学プログラム(博士(理学)) 情報環境の中で日々蓄積されていくビッグデータの解析を行うためには、従来の統計学に加え、現代数学の手法にも精通した人材が重要であると言われている。この教育プログラムでは、そのような現代数学に精通し、数理的なデータ解析に関する高度専門知識を修得し、先端的な研究により自らの専門分野を牽引していける人材を育成する。</p>
	<p>情報学術プログラム(博士(学術)) 情報技術において不可欠な言語処理の原理を提供する理論言語学や、人工環境・自然環境における各種の現象を明らかにする数理シミュレーションなど、多分野との関連を見据えた情報学・数理学の活用に関する高度専門知識を修得し、先端的な研究により自らの専門分野を牽引していける人材を育成する。</p>

II 科目の履修・成績等について

1 授業の開講方法

(1) 2学期6ターム制について

環境情報学府では、各科目間の柔軟で円滑な連携を図るために「2学期6ターム制」を導入しています。春学期を第1タームと第2タームに分割し、それぞれを8週で構成しています。夏季休業期間は第3タームとして位置付けられ、海外インターンシップ等に活用することができます。同様に、秋学期を第4タームと第5タームに分割し、春季休業期間が第6タームとなります。

科目は1単位を原則とし、各タームで週1コマ開講する授業を修めると1単位の修得となります。

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
春学期				夏季休業期間		秋学期				休	春季休業期間	
第1ターム		第2ターム		第3ターム		第4ターム		第5ターム		第6ターム		

2 履修登録関係

(1) 履修計画について

入学後のオリエンテーション等の指定された日時及び場所で、履修案内含むオリエンテーション資料を受け取ってください。その後、履修案内及び時間割表（※1）を参考に修了までの履修計画を立て、履修計画書（※2）に記入したものを責任指導教員に提出してください。それが認められ、責任指導教員が署名又は捺印したもののコピーを受け取り、控えとして保管してください。履修計画が変わった場合は、その都度最新の履修計画書を責任指導教員に提出してください。

以下の（2）から（4）で説明している手続きは学務情報システムを利用して行います。操作方法は、別途配布するマニュアルを参照してください。利用できる期間は、別途配布する「履修登録・成績処理日程」を参照してください。

※1 「時間割・履修案内・シラバス・学年暦」からダウンロードしてください。

URL : <https://www.eis.ynu.ac.jp/student/jikanwari.html>

※2 「環境情報学府書式集」からダウンロード及び印刷してください。学生が作成する様式は、基本的にこちらに掲載しております。

URL : <https://www.kankyo-jimu.ynu.ac.jp/gakugai/kankyo/gakumu.html>

(2) 履修登録期間

履修登録期間では、作成した履修計画書に基づいて、科目を登録（以下「履修登録」という。）してください。

春学期履修登録期間中に、春学期だけではなく秋学期の科目を履修登録することもできますが、秋学期履修登録期間中に翌年度春学期の科目を履修登録することはできません。

同じ学期の中で、同じ科目が複数のタームで開講されている場合、例えば、春学期である1タームと2タームの両方で同じ科目が開講されていた場合は、いずれか1つのタームを選んで履修登録することのみでき、複数のタームで履修登録をすることはできません。

(3) 履修登録確認・訂正期間

履修登録確認・訂正期間では、履修計画書どおりに履修登録されているかを確認してください。履修計画書どおりに履修登録されていない場合及びエラー科目がある場合は訂正してください。

(4) 履修登録キャンセル期間

履修登録キャンセル期間では、履修登録した科目を削除すること（以下「履修キャンセル」という）ができます。新たに履修登録することはできません。集中講義は開講初日の前日まで履修キャンセルすることができます。

第2ターム及び第5ターム開講科目用履修キャンセル期間中の履修キャンセル、並びに履修キャンセル期間外の集中講義の履修キャンセルを、学務情報システムから行うことはできません。窓口での申請となりますので「環境情報学府書式集」から履修キャンセル申請書をダウンロード及び印刷し、空欄を全て埋めたものを、環境情報学府係へ提出してください。

(5) 履修上の一般的注意

同じ曜日かつ時限に複数の科目を履修登録することはできません。

特定の科目を除いて、既に単位を修得した科目を改めて履修することはできません。

科目によっては「授業支援システム」を利用して資料のダウンロードやレポートの提出等を行う場合があります。

URL: https://www.itsc.ynu.ac.jp/internal_class/about_class.html

履修登録していない科目を受講することはできず、試験を受けても無効となります。

(6) 入学前の既修得単位の認定について

本学大学院学則第13条に基づき、入学する前に大学院（他の大学院及び外国の大学院を含む。）において履修した科目について修得した単位を有する場合、修了に必要な単位として認定される場合がありますので、入学後最初の履修登録期間最終日までに環境情報学府係に申し出てください。

3 成績関係

(1) 履修した科目の成績について

履修した科目の成績は、筆記試験、口頭試験、実技試験又は研究報告により判定し、秀、優、良、可及び不可の5種の標語で表し、それぞれの評価に対して次の(2)に定めるところによりGP(Grade Point)を与えます。判定の結果、秀、優、良及び可を取得した学生には、所定の単位を与えます。

原則として、追試験及び再試験は行わず、また、出席日数が全講義日数の1/2に満たない学生は単位認定の資格を失います。また、履修キャンセルをしないで履修を途中で放棄した場合、その科目の成績評価は「不可」となります。

特定の科目を除いて、成績評価が不可になった科目を、翌学期以降改めて履修し（以下「再履修」という）、成績評価が「可」以上と判定された場合、その科目の成績評価は再履修したときのものが適用されます。

履修登録した科目の成績は、春学期開講科目は10月上旬に、秋学期開講科目は翌年4月上旬に学務情報システムで確認することができます。正確な日程は、別途配布する「履修登録・成績処理日程」を参照してください。

(2) GPA (Grade Point Average) 制度について

GPA制度とは成績評価方法の名称です。本学では平成15年度に入学した学生から「大学教育の質的向上」及び「国際的水準に見合った成績評価」を目的にGPA制度が導入されています。個々の科目について成績評価に応じたGPを与え、以下の式によってGPA値を算出します。

$$GPA = \Sigma (GP \times \text{単位数}) \div \text{履修登録単位数}$$

成績評価（評価点）及び対応するG Pは以下の表のとおりです。

点 数	成績表記	Grade Point	単位
100点 ～ 90点	秀	4.5	単位を与える
89点 ～ 80点	優	4.0	
79点 ～ 70点	良	3.0	
69点 ～ 60点	可	2.0	
59点 ～ 0点	不可	0.0	単位を与えない

G P A算出対象科目は以下のとおりです。

- ・人工環境専攻：全科目
- ・自然環境専攻：全科目
- ・情報環境専攻：全科目

4 試験週間要領

試験週間は「学事暦」のとおりとします。

試験週間内の試験は、原則として当該科目が時間割表に定められた曜日かつ時限に行います。

受験の際は次の事項に注意してください。

- ・受験の際は学生証を机の上に提示してください。
- ・受験中の不正行為は、大学院学則第24条により懲戒処分とします。

5 短縮修了について

修了要件を満たす見込みの学生の内、優れた研究業績を上げたと認められたものは、標準修了年限に満たなくても修了すること（以下「短縮修了」という）ができます。詳細は指導教員又は学務委員に確認してください。

短縮修了を希望する学生は、原則として論文審査申請書提出期間までに「短縮修了申請書」を提出してください。なお、演習やワークショップを標準的ではない時期に履修する必要がある場合があるので、必ず事前に責任指導教員に相談してください。

6 副専攻プログラムについて

副専攻プログラムは、所属する課程や専攻に関わらず、特定の課題や分野を系統的に学習する機会を設けたプログラムです。プログラムが定めた科目を修得した学生には認定証又は修了証が発行され、成績証明書にも記載されます。なお、各プログラムの受講要件はそれぞれ異なります。詳細は本学ウェブサイト「教育・研究 → YNUの教育 → 副専攻プログラム」をご確認ください。

URL : https://www.ynu.ac.jp/education/ynu_education/vice_special.html

7 英語スキルアップ研修プログラムについて

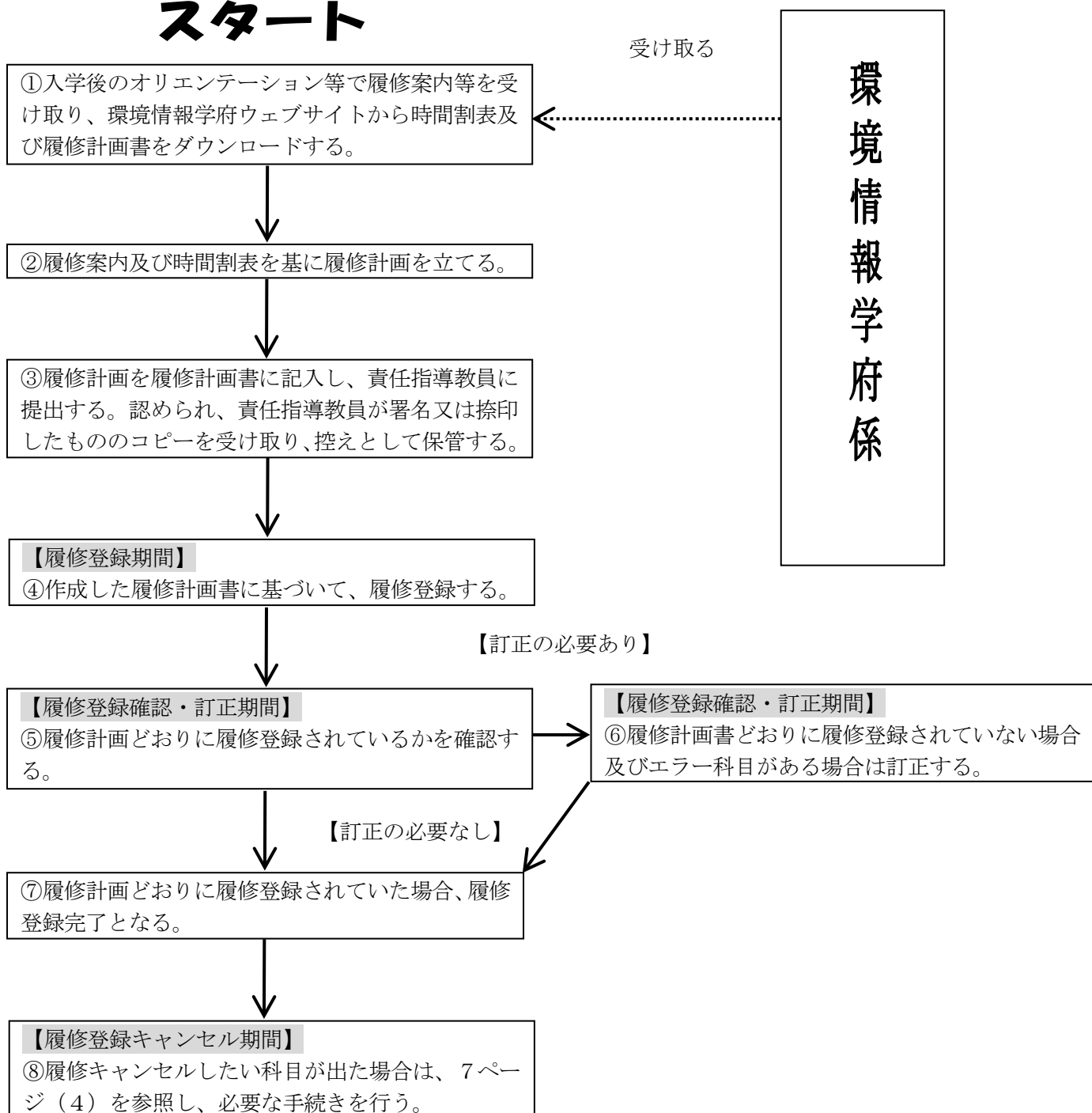
環境情報学府に所属している学生に対し、外部の英語専門機関による「英語スキルアップ研修プログラム」を実施します。詳細は環境情報学府ウェブサイトをご確認ください。

URL : <https://www.eis.ynu.ac.jp/student/index.html>

8 履修登録手続き流れ図

流れ図は便宜上大幅に簡略化しております。手続きを行う際は、6ページ及び別途配布する「学務情報システム操作方法」を熟読の上で行ってください。

スタート



III 環境情報学府の指導教員（平成31年4月現在）

前期課程の授業及び学位論文の作成等に対する指導（以下「研究指導」という。）を行うため、学生ごとに指導教員グループ（責任指導教員及び指導教員各1人）を定め、後期課程の授業及び研究指導を行うため、学生ごとに指導委員会（責任指導教員1人及び指導教員2人）を定めます。

原則として下記の表の自分が所属している専攻（以下「自専攻」という）の教員の中から学生の希望を考慮して決定されます。ただし、指導教員グループ及び指導委員会の指導教員の内、1人は自分が所属していない教育プログラム（以下「他教育プログラム」という）を担当する教員の中から選ばれます。

人工環境専攻

教育プログラム (教育プログラムコード)	教授	准教授	講師	助教
安全環境工学 (HG1)	雨宮 隆、大谷英雄、大谷裕之、 大矢 勝、亀屋隆志、鈴木淳史、 中井里史、中野 健、野口和彦、 本田 清、本藤祐樹、松本真哉、 三宅淳巳、安本雅典	荒牧賢治、伊藤暁彦、岡 泰資、 笠井尚哉、熊崎美枝子、小林 剛、 澁谷忠弘、白石俊彦、田中良巳、 松宮正彦	藤井麻樹子	
環境学 (HG2)	雨宮 隆、大矢 勝、亀屋隆志、 中井里史、鳴海大典、本藤祐樹、 松本真哉、安本雅典	荒牧賢治、伊藤暁彦、遠藤 聡、 小林 剛、松宮正彦	藤井麻樹子	
社会環境 (HG3)	亀屋隆志、周佐喜和、中井里史、 鳴海大典、本藤祐樹、宮崎 隆、 安本雅典	遠藤 聡、小林 剛、長谷部英一		

自然環境専攻

教育プログラム (教育プログラムコード)	教授	准教授	講師	助教
生態学 (HH1)	石川正弘、及川敬貴、 鏡味麻衣子、菊池知彦、 小池文人、酒井暁子、 平塚和之、間嶋隆一、松田裕之	尾形信一、佐々木雄大、下出信次、 中村達夫、中森泰三、森 章、 山本伸次、和仁良二		
地球科学 (HH2)	石川正弘、鏡味麻衣子、 菊池知彦、小池文人、酒井暁子、 平塚和之、間嶋隆一、松田裕之	尾形信一、佐々木雄大、下出信次、 中村達夫、中森泰三、森 章、 山本伸次、和仁良二		
環境学術 (HH3)	及川敬貴、鏡味麻衣子、 小池文人、酒井暁子、松田裕之	佐々木雄大、中森泰三、森 章		

情報環境専攻

教育プログラム (教育プログラムコード)	教授	准教授	講師	助教
情報学 (HJ1)	岡嶋克典、四方順司、田村直良、 長尾智晴、額田順二、松本 勉、 森 辰則、山田貴博	白崎 実、富井尚志、松井和己、 吉岡克成	白川真一	
数理科学 (HJ2)	四方順司、中本敦浩、西村尚史、 額田順二、根上生也、野間 淳	小関健太、白崎 実、原下秀士	牛越恵理佳	
情報学術 (HJ3)	額田順二、山田貴博	白崎 実、藤井友比呂、松井和己		

IV 履修基準及び科目

1 前期課程

(1) 科目と修了について

① 科目とプレレキジット制度

環境情報学府の前期課程の科目は、三専攻共通の学府共通科目（環境情報リテラシー科目及び環境情報ジェネリックスキル科目）及び専攻ごとに異なる専門教育科目（コア講義科目、専門講義科目、演習及びワークショップ）によって構成されています。また、学生の基礎的知識を補充するためにプレレキジット制度を設けています。

ア 環境情報リテラシー科目

分野の異なる教員の協働によって実施し、1つのテーマに対して学際的な文理融合・異分野融合的な視点で議論される様子を学生に示す科目です。

イ 環境情報ジェネリックスキル科目

高度専門職業人としての汎用な技能と環境情動的な視点による課題発見・課題解決の手法を学ぶために設けられた、他者との協働のためのコンピテンスを修得するための科目です。

環境情報イノベーション演習では、履修したリテラシー科目を基に初回のオリエンテーションでクラス分けを実施します。

ウ コア講義科目

各専攻で共通する専門知識と技能を修得するための科目です。

エ 専門講義科目

教育プログラム（学位）に応じた高度専門知識・技能を修得するための科目です。

オ 演習

学位取得を目指して専攻内の教員によって行われる研究指導で、指導教員グループによって学生の専門性を担保する指導を行います。責任指導教員が開講する演習（専攻共通演習及び教育プログラムごとの演習）を履修することが原則ですが、指導教員グループが認めた場合には、責任指導教員以外が開講する演習を履修することができます。その際は、履修登録期間内に「責任指導教員以外の演習履修申請書」を環境情報学府係に提出し、専攻の許可を得る必要があります。また、短縮修了を目指す場合には、標準的ではない時期に履修する必要がある場合がありますので、必ず事前に責任指導教員に相談してください。

カ ワークショップ

研究指導を行う演習と密接に結び付いて、文理融合・異分野融合の視座から自分の研究を吟味するために行われる研究成果の中間発表会です。各専攻から分野の異なる教員が参画し、人工環境、自然環境、情報環境という3つの視点から個々の学生の研究を評価します。短縮修了を目指す場合には、標準的ではない時期に履修する必要がある場合がありますので、必ず事前に責任指導教員に相談してください。

キ プレレキジット制度

指導教員グループが必要と判断した場合、学生は基礎的知識を補充するためにプレレキジット科目を履修することが推奨されます。履修が推奨される科目（全学教育科目及び教職科目を除く）は、学生ごとに指導教員グループが指示します。本科目の単位は修了に必要な単位として認定されません。

② 指導教員グループ

入学直後に指導教員グループを決定し、基本的には修了時まで研究指導を継続します。ただし、「ワークショップ I」における議論や演習の実施状況を考慮した結果、入学当初に設定した取得予定学位を変更することが妥当であると指導教員グループが判断した場合には、2年次に進学する際に自専攻内で教育プログラムを変更することができますので、責任指導教員に相談してください。

③ 修了関係

ア 修了要件

修了要件は、博士課程前期に2年以上在学し、教育プログラムごとに定められた履修方法により履修し、次の区分により30単位以上を修得し、修了に関わる科目のGPAが2.0以上（7ページ「GPA制度について」参照）であり、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格することとします。

修士論文の作成に関して専攻ごとの規則がありますので、詳細は指導教員又は学務委員に確認してください。

科目	単位数
環境情報リテラシー科目	3 単位以上
環境情報ジェネリックスキル科目	
・ 環境情報イノベーション演習	1 単位以上
・ 研究の心得	1 単位以上
・ グローバル化演習	1 単位
専門教育科目	以下の1～4を含んで24 単位以上 ※1～3
1 コア講義科目	2 単位
2 専門講義科目	8 単位以上
3 演習	8 単位以上 ※4
4 ワークショップ	2 単位
プレレキジット科目（指示された学生のみ）	
合 計	30 単位以上

※1 専門教育科目のうち1単位は、環境情報学府の三専攻の内、自分が所属していない二専攻（以下「他専攻」という）でのみ開講されている専門講義科目からの修得を必須とします。

※2 表中の1～4以外に、自専攻及び他専攻の専門講義科目並びに本学の環境情報学府以外の学府が開講する科目（※3）を専門教育科目に含めることができます。

※3 責任指導教員が認める場合には、単位互換を申し合わせている他の大学院及び本学大学院の他の研究科又は学府（教育学研究科、国際社会科学府博士課程前期、理工学府、都市イノベーション学府）の科目を履修し、講義科目に限り10単位を限度として、修得した単位を修了に必要な単位として認定することができます。希望する学生は、事前に授業担当教員の了承を得た後、作成した履修計画書に責任指導教員が署名又は捺印したもののコピーを、速やかに環境情報学府係に提出してください。

※4 演習については指導教員グループの指導の下に履修してください。

イ 取得可能な学位及び取得方法

環境情報学府では、専攻及び教育プログラムによって履修する専門教育科目及び修了時に取得する学位の種類が異なります。15ページ「(3)科目一覧（前期課程）」から、12ページ「ア修了要件」を満たすように単位を取得する際に、自分が所属している教育プログラム（以下「自

教育プログラム」という)に○がしてある専門講義科目及び演習の中から、それぞれ8単位以上ずつ履修してください。修了時に取得する学位は以下の表のとおりです。

例：人工環境専攻安全環境工学プログラムに所属している学生は、安全環境工学に○がしてある専門講義科目及び演習を、それぞれ8単位以上ずつ履修してください。

専攻名	教育プログラム	学位名
人工環境専攻	安全環境工学	修士(工学)
	環境学	修士(環境学)
	社会環境	修士(学術)
自然環境専攻	生態学	修士(環境学)
	地球科学	修士(理学)
	環境学術	修士(学術)
情報環境専攻	情報学	修士(情報学)
	数理科学	修士(理学)
	情報学術	修士(学術)

ウ 論文審査スケジュール

学位論文審査手続きとスケジュールは以下のとおりです。

項目	時期(前後する可能性あり)		内容
	9月修了	3月修了	
論文審査申請	5月	11月	環境情報学府係へ必要書類を提出
論文提出期間	7月 ↓	1月 ↓	環境情報学府係へ論文及び必要書類を提出
審査期間	8月	2月	審査の詳細は担当教員へ確認
教授会による修了認定	9月	3月	—
修了式	9月	3月	学位記授与

学位論文審査に関する手続き方法、正式な日程、提出書類等の詳細は環境情報学府ウェブサイト「環境情報学府書式集」を確認してください。

上記に加え、専攻内での審査手続き(予備審査等)及びスケジュールについては指導教員にお問い合わせください。

エ 学位論文評価基準

- ・当該研究領域における関連研究の現状や研究テーマに関連する専門知識を理解していること。(専門知識の理解度)
- ・課題の設定及びそれを解決するための方法論の選択や、仮説構築・検証方法などが妥当であること。(研究方法の妥当性)
- ・関連研究と比較して、新規性があり、当該分野の発展に貢献する研究成果が得られていること。(研究成果の独創性)
- ・上記3点を第三者が適切に評価できるように論文が構成されており、適切に表現されていること。(論文の構成・表現の適切性)

(2) 教育職員免許状の取得について

各専攻において取得可能な中学校教諭専修免許状（以下「中専免」という）及び高等学校教諭専修免許状（以下「高専免」という）並びにそれらの取得に必要な中学校教諭一種免許状（以下「中一種免」という）及び高等学校教諭一種免許状（以下「高一種免」という）は次の表のとおりです。必要な中一種免又は高一種免を取得している学生は、15ページ「(3) 科目一覧（前期課程）」の「備考」の列に「教免」と記載されている科目の中から、合計24単位以上修得することで該当の専修免許状を取得することができます。

専攻名	取得可能な免許状の種類・教科	必要な免許状の種類・教科（基礎資格）
人工環境専攻	中専免（理科） 高専免（理科）	中一種免（理科） 高一種免（理科）
自然環境専攻	中専免（理科） 高専免（理科）	中一種免（理科） 高一種免（理科）
情報環境専攻	中専免（数学） 高専免（数学）	中一種免（数学） 高一種免（数学）

(3) 科目一覧（前期課程）

科目によって履修条件が課せられている場合があるので、履修登録を行う前に必ずシラバスを確認してください。また、各科目の第1回目の授業において担当教員から履修条件が説明される場合もあるので、担当教員の指示をよく理解した上で、履修登録を行ってください。

専門教育科目の演習及びワークショップの履修順序について、通常、演習は科目名末尾がⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの順番で、ワークショップは科目名末尾がⅠ、Ⅱの順番で履修してください。

ワークショップを履修するタームについて、通常、4月に入学した学生は1年次の第5タームにⅠ、2年次の第4タームにⅡを履修し、10月に入学した学生は1年次の第2タームにⅠ、2年次の第1タームにⅡを履修してください。

環境情報イノベーション演習については、Ⅰ、Ⅱのいずれか又は順番に関わらず両方の履修が認められています。

① 学府共通科目

ア 環境情報リテラシー科目

授業科目の名称	教員名	配当年次	単位数		備考
			必修	選択	
イノベーション・マネジメント	周佐喜和, 他	1・2		1	
安心社会のための福祉・医療	中井里史, 他	1・2		1	
持続可能社会とFuture Earth	松田裕之, 他	1・2		1	
自然災害を考える一過去から未来へ	鳴海大典, 他	1・2		1	
社会インフラにおけるリスクと安全	本藤祐樹, 他	1・2		1	
情報学・数理科学の手法	藤井友比呂, 他	1・2		1	
地球科学・生態学の手法	山本伸次, 他	1・2		1	
超スマート社会の構築に向けて	長谷部英一, 他	1・2		1	
最低必要単位数合計			0	3	

イ 環境情報ジェネリックスキル科目

	授業科目の名称	教員名	配当年次	単位数		備考
				必修	選択	
研究の心得	環境情報イノベーション演習Ⅰ	松本真哉, 他	1・2		1	1単位
	環境情報イノベーション演習Ⅱ	中本敦浩, 他	1・2		1	以上選択
	科学者・技術者のための研究倫理	根上生也, 他	1・2		1	1単位 以上選択
	高度専門職能とキャリア開発	志田基与師	1・2		1	
	女性のためのキャリア教育	有光直子	1・2		1	
グローバル化演習	各教員	1・2	1		※1	
最低必要単位数合計				1	2	

※1 グローバル化演習は、ショートビジットや海外インターンシップなどの組み合わせによって単位を認定します。履修にあたっては、その時期や内容について責任指導教員とよく相談して計画を立ててください。

② 専門教育科目

ア 人工環境専攻

授業科目の名称				教員名	配当年次	単位数		備考	
						必修	選択		
コア 講義科目	人工環境概論Ⅰ			中井里史, 他	1・2	1			
	人工環境概論Ⅱ			本田清, 他	1・2	1			
	最低必要単位数小計					2	0		
	安全 環境 工学	環 境 学	社 会 環 境	(この領域は、専攻の必修科目として設定されている)					
専 門 講 義 科 目	○	○	○	イノベーション戦略論	安本雅典	1・2		1	
	○	○	○	ライフサイクルアセスメントⅠ	本藤祐樹	1		1	教免
	○	○	○	ライフサイクルアセスメントⅡ	本藤祐樹	1		1	教免
	○	○	○	環境イノベーション論Ⅰ	鳴海大典	1・2		1	教免
	○	○	○	環境イノベーション論Ⅱ	鳴海大典	1・2		1	教免
	○	○	○	環境疫学・健康リスク評価方法論	中井里史	1・2		1	
	○	○	○	知識マネジメントと標準化	安本雅典	1・2		1	
	○	○	○	物質・生命と環境	松本真哉, 他	1・2		1	教免
	○	○		化学物質環境動態解析	小林剛, 他	1・2		1	教免
	○	○		環境化学分析学	亀屋隆志, 他	1・2		1	教免
	○	○		環境材料設計学Ⅰ	荒牧賢治, 伊藤暁彦	1・2		1	教免
	○	○		環境材料設計学Ⅱ	荒牧賢治, 伊藤暁彦	1・2		1	教免
	○	○		環境材料分析手法Ⅰ	藤井麻樹子, 松本真哉	1・2		1	教免
	○	○		環境材料分析手法Ⅱ	藤井麻樹子, 松本真哉	1・2		1	教免
	○	○		環境洗浄科学	大矢勝	1		1	教免
	○	○		都市環境管理学	小林剛, 他	1・2		1	
		○	○	Sustainable Health and Environment	中井里史	1・2		1	
		○	○	環境排出管理学	亀屋隆志, 小林剛	1・2		1	
		○	○	生態系評価学Ⅰ	佐々木雄大	1・2		1	※1
		○	○	地域発展政策Ⅰ	遠藤聡	1・2		1	
		○	○	地域発展政策Ⅱ	遠藤聡	1・2		1	
	○			インテリジェント構造システム学	白石俊彦	1・2		1	
	○			リスクマネジメント論	野口和彦	1・2		1	
	○			安全社会論	野口和彦	1・2		1	
	○			化学災害リスク論	三宅淳巳	1・2		1	
	○			化学反応プロセスのリスク管理Ⅰ	熊崎美枝子	1・2		1	
	○			化学反応プロセスのリスク管理Ⅱ	熊崎美枝子	1・2		1	
	○			化学物質のハザード評価	大谷英雄	1		1	
○			火災の科学と防火技術Ⅰ	岡泰資	1・2		1		
○			火災の科学と防火技術Ⅱ	岡泰資	1・2		1		
○			環境ソフトマター科学Ⅰ	田中良巳, 鈴木淳史	1・2		1		
○			環境ソフトマター科学Ⅱ	鈴木淳史, 田中良巳	1・2		1		
○			環境機能物質科学Ⅰ	本田清, 大谷裕之	1・2		1	教免	
○			環境機能物質科学Ⅱ	大谷裕之, 本田清	1・2		1	教免	

授業科目の名称				教員名	配当年次	単位数		備考	
						必修	選択		
安全環境工学	環境学	社会環境	(この領域は、専攻科目として扱われる)						
			○		環境物理化学Ⅰ	雨宮隆, 松宮正彦	1・2	1	教免
			○		環境物理化学Ⅱ	雨宮隆, 松宮正彦	1・2	1	教免
			○		機械システムのリスク評価と制御技術Ⅰ	澁谷忠弘	1・2	1	
			○		機械システムのリスク評価と制御技術Ⅱ	澁谷忠弘	1・2	1	
			○		産業災害事故の解析と設備のリスクアセスメントⅠ	笠井尚哉	1・2	1	
			○		産業災害事故の解析と設備のリスクアセスメントⅡ	笠井尚哉	1・2	1	
			○		自然生態系設計学Ⅰ	森章	1・2	1	※1
			○		地球システム科学Ⅰ	石川正弘	1・2	1	※1
			○		非線形力学特論	中野健	1・2	1	
				○	生態リスクと社会的合意	松田裕之	1・2	1	※1
				○	イノベーション組織論	周佐喜和	1・2	1	
				○	グローバルビジネスとイノベーション	周佐喜和	1・2	1	
				○	生(いのち)の哲学	宮崎隆	1・2	1	
				○	環境イノベーション思想史	長谷部英一	1・2	1	
	○	社会老年学Ⅰ	安藤孝敏	1・2	1				
	○	社会老年学Ⅱ	安藤孝敏	1・2	1				
	○	自然生態系管理学	森章	1・2	1	※1			
最低必要単位数小計						0	8		
演習	○	○	○	人工環境演習Ⅰ	各教員	1	1	専攻共通演習	
	○	○	○	人工環境演習Ⅱ	各教員	1	1	専攻共通演習	
	○	○	○	人工環境演習Ⅲ	各教員	1	1	専攻共通演習	
	○	○	○	人工環境演習Ⅳ	各教員	1	1	専攻共通演習	
	○			安全環境工学演習Ⅰ	各教員	2	1	※2	
	○			安全環境工学演習Ⅱ	各教員	2	1	※2	
	○			安全環境工学演習Ⅲ	各教員	2	1	※2	
	○			安全環境工学演習Ⅳ	各教員	2	1	※2	
		○		環境学演習Ⅰ	各教員	2	1	※2	
		○		環境学演習Ⅱ	各教員	2	1	※2	
		○		環境学演習Ⅲ	各教員	2	1	※2	
		○		環境学演習Ⅳ	各教員	2	1	※2	
			○	社会環境演習Ⅰ	各教員	2	1	※2	
			○	社会環境演習Ⅱ	各教員	2	1	※2	
			○	社会環境演習Ⅲ	各教員	2	1	※2	
			○	社会環境演習Ⅳ	各教員	2	1	※2	
	○			インテリジェント構造システム学演習Ⅰ	白石俊彦	1	1	※2	
	○			インテリジェント構造システム学演習Ⅱ	白石俊彦	1	1	※2	
	○			インテリジェント構造システム学演習Ⅲ	白石俊彦	1	1	※2	
	○			インテリジェント構造システム学演習Ⅳ	白石俊彦	1	1	※2	
○			ライフサイクルアセスメント演習Ⅰ	本藤祐樹	1	1	教免、※2		
○			ライフサイクルアセスメント演習Ⅱ	本藤祐樹	1	1	教免、※2		
○			ライフサイクルアセスメント演習Ⅲ	本藤祐樹	1	1	教免、※2		
○			ライフサイクルアセスメント演習Ⅳ	本藤祐樹	1	1	教免、※2		

授業科目の名称				教員名	配当 年次	単位数		備考
						必 修	選 択	
演習	安全 環境 工学	環境 学	社会 環境	化学反応プロセスのリスク管理演習Ⅰ	熊崎美枝子	1	1	※2
	化学反応プロセスのリスク管理演習Ⅱ			熊崎美枝子	1	1	※2	
	化学反応プロセスのリスク管理演習Ⅲ			熊崎美枝子	1	1	※2	
	化学反応プロセスのリスク管理演習Ⅳ			熊崎美枝子	1	1	※2	
	化学物質のハザード評価演習Ⅰ			大谷英雄	1	1	※2	
	化学物質のハザード評価演習Ⅱ			大谷英雄	1	1	※2	
	化学物質のハザード評価演習Ⅲ			大谷英雄	1	1	※2	
	化学物質のハザード評価演習Ⅳ			大谷英雄	1	1	※2	
	環境イノベーション論演習Ⅰ			鳴海大典	1	1	教免、※2	
	環境イノベーション論演習Ⅱ			鳴海大典	1	1	教免、※2	
	環境イノベーション論演習Ⅲ			鳴海大典	1	1	教免、※2	
	環境イノベーション論演習Ⅳ			鳴海大典	1	1	教免、※2	
	環境化学分析学演習Ⅰ			亀屋隆志, 他	1	1	教免、※2	
	環境化学分析学演習Ⅱ			亀屋隆志, 他	1	1	教免、※2	
	環境化学分析学演習Ⅲ			亀屋隆志, 他	1	1	教免、※2	
	環境化学分析学演習Ⅳ			亀屋隆志, 他	1	1	教免、※2	
	環境機能物質科学演習Ⅰ			大谷裕之, 本田清	1	1	教免、※2	
	環境機能物質科学演習Ⅱ			大谷裕之, 本田清	1	1	教免、※2	
	環境機能物質科学演習Ⅲ			大谷裕之, 本田清	1	1	教免、※2	
	環境機能物質科学演習Ⅳ			大谷裕之, 本田清	1	1	教免、※2	
	環境材料設計学演習Ⅰ			伊藤暁彦, 荒牧賢治	1	1	教免、※2	
	環境材料設計学演習Ⅱ			伊藤暁彦, 荒牧賢治	1	1	教免、※2	
	環境材料設計学演習Ⅲ			伊藤暁彦, 荒牧賢治	1	1	教免、※2	
	環境材料設計学演習Ⅳ			伊藤暁彦, 荒牧賢治	1	1	教免、※2	
	環境材料分析手法演習Ⅰ			藤井麻樹子, 松本真哉	1	1	教免、※2	
	環境材料分析手法演習Ⅱ			藤井麻樹子, 松本真哉	1	1	教免、※2	
	環境材料分析手法演習Ⅲ			藤井麻樹子, 松本真哉	1	1	教免、※2	
	環境材料分析手法演習Ⅳ			藤井麻樹子, 松本真哉	1	1	教免、※2	
	環境洗浄科学演習Ⅰ			大矢勝	1	1	教免、※2	
	環境洗浄科学演習Ⅱ			大矢勝	1	1	教免、※2	
	環境洗浄科学演習Ⅲ			大矢勝	1	1	教免、※2	
	環境洗浄科学演習Ⅳ			大矢勝	1	1	教免、※2	
	環境物理化学演習Ⅰ			雨宮隆, 松宮正彦	1	1	教免、※2	
	環境物理化学演習Ⅱ			雨宮隆, 松宮正彦	1	1	教免、※2	
環境物理化学演習Ⅲ	雨宮隆, 松宮正彦	1	1	教免、※2				
環境物理化学演習Ⅳ	雨宮隆, 松宮正彦	1	1	教免、※2				

授業科目の名称				教員名	配 当 年 次	単位数		備考
安全 環境 工学	環境学	社会 環境	必 修			選 択		
演習	○		機械システムのリスク評価と 制御技術演習Ⅰ	澁谷忠弘	1		1	※2
	○		機械システムのリスク評価と 制御技術演習Ⅱ	澁谷忠弘	1		1	※2
	○		機械システムのリスク評価と 制御技術演習Ⅲ	澁谷忠弘	1		1	※2
	○		機械システムのリスク評価と 制御技術演習Ⅳ	澁谷忠弘	1		1	※2
	○		産業災害事故の解析と設備の リスクアセスメント演習Ⅰ	笠井尚哉	1		1	※2
	○		産業災害事故の解析と設備の リスクアセスメント演習Ⅱ	笠井尚哉	1		1	※2
	○		産業災害事故の解析と設備の リスクアセスメント演習Ⅲ	笠井尚哉	1		1	※2
	○		産業災害事故の解析と設備の リスクアセスメント演習Ⅳ	笠井尚哉	1		1	※2
	最低必要単位数小計						0	8
ワーク ショップ	人工環境ワークショップⅠ			専攻全教員	1	1		
	人工環境ワークショップⅡ			専攻全教員	2	1		
	最低必要単位数小計						2	0
最低必要単位数合計						4	16	

※1 人工環境専攻と自然環境専攻両方の専門講義科目なので、いずれかの専攻に所属している学生が当該科目を履修した場合は自専攻の専門講義科目として計算され、修了に1単位必要な「他専攻でのみ開講されている専門講義科目」としては計算されません。

※2 人工環境専攻に所属している学生の内、中専免(理科)又は高専免(理科)の取得を希望しないものは、専攻共通演習に加え、安全環境工学プログラムに所属している学生は安全環境工学演習を、環境学プログラムに所属している学生は環境学演習を、社会環境プログラムに所属している学生は社会環境演習を履修してください。

中専免(理科)又は高専免(理科)の取得を希望するものは、教育プログラムごとの演習として指導教員が担当する演習を最大4単位まで選択することが可能です。指導教員の開講している演習の備考欄に「教免」と書かれていない場合は、環境情報学府係に相談してください。

※3 人工環境専攻に所属している学生は、中専免(理科)又は高専免(理科)の取得に必要な科目として、自然環境専攻開講の「植物遺伝子工学Ⅰ」「植物遺伝子工学Ⅱ」「植物分子生理学Ⅰ」「植物分子生理学Ⅱ」「地球システム物質循環論Ⅰ」「地球システム物質循環論Ⅱ」「海洋生物環境学Ⅰ」「海洋生物環境学Ⅱ」「古生態学Ⅰ」「古生態学Ⅱ」「土壌生物学Ⅰ」「土壌生物学Ⅱ」「海洋システム科学Ⅰ」「海洋システム科学Ⅱ」を履修することが可能です。

イ 自然環境専攻

授業科目の名称				教員名	配当年次	単位数		備考	
						必修	選択		
コア講義科目				自然環境概論Ⅰ	小池文人, 他	1・2	1		
				自然環境概論Ⅱ	山本伸次, 他	1・2	1		
				最低必要単位数小計					
	生態学	地球科学	環境学術						
専門講義科目	○	○	○	ユネスコエコパークや関連制度を活用した環境共生型地域の創出	酒井暁子	1・2		1	
	○	○	○	外来生物問題を解決するモデルと社会	小池文人	1・2		1	教免
	○	○	○	自然生態系管理学	森章	1・2		1	教免
	○	○	○	自然生態系設計学Ⅰ	森章	1・2		1	教免
	○	○	○	自然生態系設計学Ⅱ	小池文人	1・2		1	教免
	○	○	○	生態リスクと社会的合意	松田裕之	1・2		1	教免
	○	○	○	生態学：進化と環境適応	酒井暁子	1・2		1	教免
	○	○	○	生態学特別講義	小池文人, 他	1・2		2	教免、※1
	○	○	○	生態学特別実験	小池文人, 他	1・2		2	教免、※1
	○	○	○	生態系評価学Ⅰ	佐々木雄大	1・2		1	教免
	○	○	○	生態系評価学Ⅱ	佐々木雄大	1・2		1	教免
	○	○	○	土壌生物学Ⅰ	中森泰三	1・2		1	教免
	○	○	○	湖と川の生態学Ⅰ	鏡味麻衣子	1・2		1	
	○	○	○	湖と川の生態学Ⅱ	鏡味麻衣子	1・2		1	
	○	○	○	野生動物・水産資源管理学	松田裕之	1・2		1	教免
	○	○		海洋システム科学Ⅰ	菊池知彦	1・2		1	教免
	○	○		海洋システム科学Ⅱ	菊池知彦	1・2		1	教免
	○	○		海洋古環境学Ⅰ	間嶋隆一	1・2		1	教免
	○	○		海洋古環境学Ⅱ	間嶋隆一	1・2		1	教免
	○	○		海洋生物環境学Ⅰ	下出信次	1・2		1	教免
	○	○		海洋生物環境学Ⅱ	下出信次	1・2		1	教免
	○	○		古生態学Ⅰ	和仁良二	1・2		1	教免
	○	○		古生態学Ⅱ	和仁良二	1・2		1	教免
	○	○		植物遺伝子機能学Ⅰ	尾形信一	1・2		1	教免
	○	○		植物遺伝子機能学Ⅱ	尾形信一	1・2		1	教免
	○	○		植物遺伝子工学Ⅰ	平塚和之	1・2		1	教免
	○	○		植物遺伝子工学Ⅱ	平塚和之	1・2		1	教免
	○	○		植物分子生理学Ⅰ	中村達夫	1・2		1	教免
	○	○		植物分子生理学Ⅱ	中村達夫	1・2		1	教免
	○	○		地球システム科学Ⅰ	石川正弘	1・2		1	教免
	○	○		地球システム科学Ⅱ	石川正弘	1・2		1	教免
	○	○		地球システム物質循環論Ⅰ	山本伸次	1・2		1	教免
	○	○		地球システム物質循環論Ⅱ	山本伸次	1・2		1	教免
○	○		地球科学特別講義	石川正弘, 他	1・2		2	教免、※2	
○	○		地球科学特別実験	石川正弘, 他	1・2		2	教免、※2	
○	○		土壌生態学Ⅰ	金子信博	1・2		1	教免	
○	○		土壌生態学Ⅱ	金子信博	1・2		1	教免	
○	○		土壌生物学Ⅱ	中森泰三	1・2		1	教免	
○	○		分子生物学特別講義	平塚和之, 他	1・2		2	教免、※3	
○	○		分子生物学特別実験	平塚和之, 他	1・2		2	教免、※3	
○		○	イノベーション組織論	周佐喜和	1・2		1	※4	
○		○	グローバルビジネスとイノベーション	周佐喜和	1・2		1	※4	
○		○	環境イノベーション論Ⅰ	鳴海大典	1・2		1	※4	
○		○	環境イノベーション論Ⅱ	鳴海大典	1・2		1	※4	
○		○	環境法Ⅰ	及川敬貴	1・2		1		
○		○	環境法Ⅱ	及川敬貴	1・2		1		

授業科目の名称				教員名	配当年次	単位数		備考	
						必	選		
						修	択		
専門講義科目	生態学		○	社会老年学Ⅰ	安藤孝敏	1・2		1	※4
			○	社会老年学Ⅱ	安藤孝敏	1・2		1	※4
			○	地域発展政策Ⅰ	遠藤聡	1・2		1	※4
			○	地域発展政策Ⅱ	遠藤聡	1・2		1	※4
	最低必要単位数小計							0	8
演習		○	○	自然環境演習Ⅰ	各教員	1		1	専攻共通演習
			○	自然環境演習Ⅱ	各教員	1		1	専攻共通演習
			○	自然環境演習Ⅲ	各教員	1		1	専攻共通演習
			○	自然環境演習Ⅳ	各教員	1		1	専攻共通演習
				生態学演習Ⅰ	各教員	2		1	
				生態学演習Ⅱ	各教員	2		1	
				生態学演習Ⅲ	各教員	2		1	
				生態学演習Ⅳ	各教員	2		1	
				地球科学演習Ⅰ	各教員	2		1	
				地球科学演習Ⅱ	各教員	2		1	
				地球科学演習Ⅲ	各教員	2		1	
				地球科学演習Ⅳ	各教員	2		1	
			○	環境学術演習Ⅰ	各教員	2		1	
			○	環境学術演習Ⅱ	各教員	2		1	
			○	環境学術演習Ⅲ	各教員	2		1	
			○	環境学術演習Ⅳ	各教員	2		1	
	最低必要単位数小計							0	8
ワークショップ				自然環境ワークショップⅠ	専攻全教員	1		1	
				自然環境ワークショップⅡ	専攻全教員	2		1	
	最低必要単位数小計							2	0
最低必要単位数合計							4	16	

- ※1 生態学特別講義を履修した学生のみが生態学特別実験を履修することができます。なお、生態学特別講義を履修した場合、分子生物学特別講義及び地球科学特別講義を履修することはできません。
- ※2 地球科学特別講義を履修した学生のみが地球科学特別実験を履修することができます。なお、地球科学特別講義を履修した場合、生態学特別講義及び分子生物学特別講義を履修することはできません。
- ※3 分子生物学特別講義を履修した学生のみが分子生物学特別実験を履修することができます。なお、分子生物学特別講義を履修した場合、生態学特別講義及び地球科学特別講義を履修することはできません。
- ※4 人工環境専攻と自然環境専攻両方の専門講義科目なので、いずれかの専攻に所属している学生が当該科目を履修した場合は自専攻の専門講義科目として計算され、修了に1単位必要な「他専攻でのみ開講されている専門講義科目」としては計算されません。

ウ 情報環境専攻

授業科目の名称				教員名	配当 年次	単位数		備考	
						必 修	選 択		
コア 講義科目				情報環境概論Ⅰ	岡嶋克典, 他	1・2	1		
				情報環境概論Ⅱ	中本敦浩, 他	1・2	1	教免	
				最低必要単位数小計					2
	情報学	数理科学	情報学術						
専門 講義 科目	○	○	○	社会における数理科学特論Ⅰ	額田順二	1・2		1	教免
	○	○	○	社会における数理科学特論Ⅱ	額田順二	1・2		1	教免
	○	○	○	情報数学特論Ⅰ	中本敦浩, 小関健太	1・2		1	教免
	○	○	○	情報数学特論Ⅱ	野間淳, 原下秀士	1・2		1	教免
	○	○	○	情報数学特論Ⅲ	牛越恵理佳, 白崎実	1・2		1	教免
	○	○	○	情報数学特論Ⅳ	西村尚史, 根上生也	1・2		1	教免
	○	○	○	数値シミュレーションの数理	山田貴博, 松井和己	1・2		1	教免
	○	○	○	数理アルゴリズム特論	四方順司	1・2		1	教免
	○	○	○	数理解析モデリングⅠ	松井和己, 山田貴博	1・2		1	教免
	○	○	○	数理解析モデリングⅡ	松井和己, 山田貴博	1・2		1	教免
	○	○	○	数理物理シミュレーション特論Ⅰ	白崎実	1・2		1	教免
	○	○	○	数理物理シミュレーション特論Ⅱ	白崎実	1・2		1	教免
	○	○	○	物理モデリングの数理	山田貴博, 松井和己	1・2		1	教免
	○		○	セキュリティ解析Ⅰ	松本勉, 吉岡克成	1・2		1	
	○		○	セキュリティ情報学Ⅰ	四方順司, 他	1・2		1	
	○		○	マルチメディア情報学Ⅰ	富井尚志, 他	1・2		1	
	○		○	言語情報応用論Ⅰ	田村直良, 森辰則	1・2		1	
	○		○	言語情報応用論Ⅱ	田村直良, 森辰則	1・2		1	
	○		○	言語情報処理基礎論Ⅰ	田村直良, 森辰則	1・2		1	
	○		○	言語情報処理基礎論Ⅱ	森辰則, 田村直良	1・2		1	
	○		○	最適化と探索Ⅰ	長尾智晴, 白川真一	1・2		1	
	○		○	人工知能特論Ⅰ	白川真一, 長尾智晴	1・2		1	
	○		○	人間情報処理Ⅰ	岡嶋克典, 他	1・2		1	
	○		○	人間情報処理Ⅱ	岡嶋克典, 他	1・2		1	
			○	グラフ理論特論Ⅰ	根上生也, 中本敦浩	1・2		1	教免
		○	トポロジー特論Ⅰ	西村尚史, 根上生也	1・2		1	教免	
		○	解析学特論Ⅰ	牛越恵理佳	1・2		1	教免	
		○	数理情報特論Ⅰ	小関健太, 中本敦浩	1・2		1	教免	

授業科目の名称				教員名	配当 年次	単位数		備考	
						必 修	選 択		
情報学	数理科学	情報学術							
			専門講義科目						
	○	○	代数学特論Ⅰ	原下秀士, 野間淳	1・2		1	教免	
	○	○	代数幾何学特論Ⅰ	野間淳, 原下秀士	1・2		1	教免	
	○	○	離散数学特論Ⅰ	中本敦浩, 根上生也	1・2		1	教免	
	○		セキュリティ解析Ⅱ	松本勉, 吉岡克成	1・2		1		
	○		セキュリティ情報学Ⅱ	吉岡克成,他	1・2		1		
	○		セキュリティ情報学応用	松本勉,他	1・2		1		
	○		マルチメディア情報学Ⅱ	富井尚志,他	1・2		1		
	○		最適化と探索Ⅱ	長尾智晴, 白川真一	1・2		1		
	○		人工知能特論Ⅱ	白川真一, 長尾智晴	1・2		1		
	○		グラフ理論特論Ⅱ	中本敦浩, 根上生也	1・2		1	教免	
	○		トポロジー特論Ⅱ	西村尚史, 根上生也	1・2		1	教免	
	○		解析学特論Ⅱ	牛越恵理佳	1・2		1	教免	
	○		数理情報特論Ⅱ	小関健太, 中本敦浩	1・2		1	教免	
	○		代数学特論Ⅱ	原下秀士, 野間淳	1・2		1	教免	
	○		代数幾何学特論Ⅱ	野間淳, 原下秀士	1・2		1	教免	
	○		離散数学特論Ⅱ	中本敦浩, 根上生也	1・2		1	教免	
		○	理論言語学基盤論Ⅰ	藤井友比呂	1・2		1		
		○	理論言語学基盤論Ⅱ	藤井友比呂	1・2		1		
		○	理論言語学特論Ⅰ	藤井友比呂	1・2		1		
		○	理論言語学特論Ⅱ	藤井友比呂	1・2		1		
最低必要単位数小計							0	8	
演習	○	○	○	情報環境演習Ⅰ	各教員	1	1	専攻共通演習、※1	
	○	○	○	情報環境演習Ⅱ	各教員	1	1	専攻共通演習、※1	
	○	○	○	情報環境演習Ⅲ	各教員	1	1	専攻共通演習、※1	
	○	○	○	情報環境演習Ⅳ	各教員	1	1	専攻共通演習、※1	
	○	○	○	情報数学特論演習Ⅰ	中本敦浩, 小関健太	1	1	教免、※1	
	○	○	○	情報数学特論演習Ⅱ	原下秀士, 野間淳	1	1	教免、※1	
	○	○	○	情報数学特論演習Ⅲ	牛越恵理佳, 白崎実	1	1	教免、※1	
	○	○	○	情報数学特論演習Ⅳ	西村尚史, 根上生也	1	1	教免、※1	

授業科目の名称				教員名	配当 年次	単位数		備考
						必 修	選 択	
演習	情報学	数理科学	情報学術					
	○			情報学演習Ⅰ	各教員	2		1
○			情報学演習Ⅱ	各教員	2		1	
○			情報学演習Ⅲ	各教員	2		1	
○			情報学演習Ⅳ	各教員	2		1	
	○		数理科学演習Ⅰ	各教員	2		1	
	○		数理科学演習Ⅱ	各教員	2		1	
	○		数理科学演習Ⅲ	各教員	2		1	
	○		数理科学演習Ⅳ	各教員	2		1	
		○	情報学術演習Ⅰ	各教員	2		1	
		○	情報学術演習Ⅱ	各教員	2		1	
		○	情報学術演習Ⅲ	各教員	2		1	
		○	情報学術演習Ⅳ	各教員	2		1	
	○	○	社会における数理科学特論演習Ⅰ	額田順二	2		1	教免
	○	○	社会における数理科学特論演習Ⅱ	額田順二	2		1	教免
	○	○	社会における数理科学特論演習Ⅲ	額田順二	2		1	教免
	○	○	社会における数理科学特論演習Ⅳ	額田順二	2		1	教免
	○	○	数理物理シミュレーション特論演習Ⅰ	白崎実	2		1	教免
	○	○	数理物理シミュレーション特論演習Ⅱ	白崎実	2		1	教免
	○	○	数理物理シミュレーション特論演習Ⅲ	白崎実	2		1	教免
	○	○	数理物理シミュレーション特論演習Ⅳ	白崎実	2		1	教免
	○		グラフ理論特論演習Ⅰ	中本敦浩, 根上生也	2		1	教免
	○		グラフ理論特論演習Ⅱ	中本敦浩, 根上生也	2		1	教免
	○		グラフ理論特論演習Ⅲ	中本敦浩, 根上生也	2		1	教免
	○		グラフ理論特論演習Ⅳ	中本敦浩, 根上生也	2		1	教免
	○		トポロジー特論演習Ⅰ	西村尚史, 根上生也	2		1	教免
	○		トポロジー特論演習Ⅱ	西村尚史, 根上生也	2		1	教免
	○		トポロジー特論演習Ⅲ	西村尚史, 根上生也	2		1	教免
	○		トポロジー特論演習Ⅳ	西村尚史, 根上生也	2		1	教免
	○		解析学特論演習Ⅰ	牛越恵理佳	2		1	教免
	○		解析学特論演習Ⅱ	牛越恵理佳	2		1	教免
	○		解析学特論演習Ⅲ	牛越恵理佳	2		1	教免
	○		解析学特論演習Ⅳ	牛越恵理佳	2		1	教免
	○		数理情報特論演習Ⅰ	小関健太, 中本敦浩	2		1	教免
	○		数理情報特論演習Ⅱ	小関健太, 中本敦浩	2		1	教免
	○		数理情報特論演習Ⅲ	小関健太, 中本敦浩	2		1	教免
	○		数理情報特論演習Ⅳ	小関健太, 中本敦浩	2		1	教免
	○		代数学特論演習Ⅰ	原下秀士, 野間淳	2		1	教免
	○		代数学特論演習Ⅱ	原下秀士, 野間淳	2		1	教免

授業科目の名称				教員名	配当 年次	単位数		備考
	情報学	数理科学	情報学術			必 修	選 択	
演習		○	代数学特論演習Ⅲ	原下秀士, 野間淳	2		1	教免
		○	代数学特論演習Ⅳ	原下秀士, 野間淳	2		1	教免
		○	代数幾何学特論演習Ⅰ	野間淳, 原下秀士	2		1	教免
		○	代数幾何学特論演習Ⅱ	野間淳, 原下秀士	2		1	教免
		○	代数幾何学特論演習Ⅲ	野間淳, 原下秀士	2		1	教免
		○	代数幾何学特論演習Ⅳ	野間淳, 原下秀士	2		1	教免
		○	離散数学特論演習Ⅰ	中本敦浩, 根上生也	2		1	教免
		○	離散数学特論演習Ⅱ	中本敦浩, 根上生也	2		1	教免
		○	離散数学特論演習Ⅲ	中本敦浩, 根上生也	2		1	教免
		○	離散数学特論演習Ⅳ	中本敦浩, 根上生也	2		1	教免
最低必要単位数小計						0	8	
ワーク ショップ	情報環境ワークショップⅠ			専攻全教員	1	1		
	情報環境ワークショップⅡ			専攻全教員	2	1		
最低必要単位数小計						2	0	
最低必要単位数合計						4	16	

※1 情報環境専攻に所属している学生の内、中専免(数学)又は高専免(数学)の取得を希望するものは、専攻共通演習として「情報数学特論演習Ⅰ～Ⅳ」を履修してください。

※2 情報環境専攻に所属している学生は、中専免(数学)又は高専免(数学)の取得に必要な科目として、理工学府開講の「先進数理科学 確率A」「先進数理科学 確率B」「先進数理科学 統計」「数理科学 確率・統計」「数理科学 データ・サイエンス」を履修することができます。

2 後期課程

(1) 科目と修了について

① 科目とプレレキジット制度

環境情報学府の後期課程の科目は、三専攻共通の学府共通科目（環境情報リテラシー科目及び環境情報ジェネリックスキル科目）及び専攻ごとに異なる専門教育科目（演習及びワークショップ）によって構成されています。また、学生の基礎的知識を補充するためにプレレキジット制度を設けています。

ア 環境情報リテラシー科目

分野の異なる教員の協働によって実施し、1つのテーマに対して学際的な文理融合・異分野融合的な視点で議論される様子を学生に示す科目です。

イ 環境情報ジェネリックスキル科目

各分野を牽引するリーダー的な人材に必要な汎用な技能と環境情動的な視点による課題発見・課題解決の手法を学ぶために設けられた、他者との協働のためのコンピテンスを修得するための科目です。

環境情報イノベーション特別演習の履修については、オリエンテーション時に説明を行います。

ウ 演習

学位取得を目指して専攻内の教員によって行われる研究指導で、指導委員会によって学生の専門性を担保する指導を行います。責任指導教員が開講する演習(教育プログラムごとの演習)を履修することが原則ですが、指導委員会が認めた場合には、責任指導教員以外が開講する演習を履修することができます。その際は、履修登録期間内に「責任指導教員以外の演習履修申請書」を環境情報学府係に提出し、専攻の許可を得る必要があります。また、短縮修了を目指す場合には、標準的ではない時期に履修する必要がある場合がありますので、必ず事前に責任指導教員に相談してください。

エ ワークショップ

研究指導を行う演習と密接に結び付いて、文理融合・異分野融合の視座から自分の研究を吟味するために行われる研究成果の中間発表会です。各専攻から分野の異なる教員が参画し、人工環境、自然環境、情報環境という3つ視点から個々の学生の研究を評価します。また、博士課程前期の学生も含めて行われるワークショップの運営に参画します。短縮修了を目指す場合には、標準的ではない時期に履修する必要がある場合がありますので、必ず事前に責任指導教員に相談してください。

オ プレレキジット制度

指導委員会が必要と判断した場合、学生は基礎的知識を補充するためにプレレキジット科目を履修することが推奨されます。履修が推奨される科目（全学教育科目及び教職科目を除く）は、学生ごとに指導委員会が指示します。本科目の単位は修了に必要な単位として認定されません。

② 指導委員会

入学直後に指導委員会を設置し、基本的には修了時まで研究指導を継続します。ただし、「特別ワークショップⅠ」における議論や演習の実施状況を考慮した結果、入学当初に設定した取得予定学位を変更することが妥当であると指導委員会が判断した場合には、2年次に進学する際に自専攻内で教育プログラムを変更することができますので、責任指導教員に相談してください。

③ 指導委員会報告書

学生は、各年次当初に（1年次を除く）、指導委員会報告書（指定用紙有）の研究進捗状況欄を作成し、責任指導教員に提出する必要があります。責任指導教員は、単位の取得及び学位論文研究の進捗状況を把握し、評価欄に所見を記載するとともに学生の修学及び研究が適切に進むよう研究指導等を行います。

④ 修了関係

ア 修了要件

修了要件は、博士課程後期に3年以上在学し、教育プログラムごとに定められた履修方法により履修し、次の区分により13単位以上を修得し、修了に関わる科目のGPAが2.0以上（7ページ「GPA制度について」参照）であり、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとします。

博士論文の作成に関して専攻ごとの規則がありますので、詳細は指導教員又は学務委員に確認してください。

科目	単位数
環境情報リテラシー科目	1単位以上 ※1
環境情報ジェネリックスキル科目	
・環境情報イノベーション特別演習 ・グローバル化特別演習	1単位以上 1単位
専門教育科目	以下の1、2を含んで10単位以上 ※2
1 演習 2 ワークショップ	8単位以上 ※3 2単位
プレレジット科目（指示された学生のみ）	
合計	13単位以上

※1 環境情報学府博士課程前期修了生は、博士課程前期在学時に履修していない科目を履修してください。

※2 責任指導教員が認める場合には、単位互換を申し合わせている他の大学院、環境情報学府の前期課程及び本学大学院の他の研究科又は学府（教育学研究科、国際社会科学府博士課程後期、理工学府、都市イノベーション学府）の科目を履修することができます。希望する学生は、**事前に授業担当教員の下承を得た後、作成した履修計画書に責任指導教員が署名又は捺印したもののコピーを、速やかに環境情報学府係に提出してください。**

※3 演習については指導委員会の指導の下に履修してください。

イ 取得可能な学位

環境情報学府では、専攻及び教育プログラムによって履修する専門教育科目及び修了時に取得する学位の種類が異なります。29ページ「(3)科目一覧（後期課程）」から、27ページ「ア 修了要件」を満たすように単位を取得する際に、自教育プログラムに○がしてある演習の中から8単位以上履修してください。修了時に取得する学位は次のページの表のとおりです。

例：人工環境専攻安全環境工学プログラムに所属している学生は、安全環境工学に○がしてある演習を8単位以上履修してください。

専攻名	教育プログラム	学位名
人工環境専攻	安全環境工学	博士（工学）
	環境学	博士（環境学）
	社会環境	博士（学術）
自然環境専攻	生態学	博士（環境学）
	地球科学	博士（理学）
	環境学術	博士（学術）
情報環境専攻	情報学	博士（情報学）
	数理科学	博士（理学）
	情報学術	博士（学術）

ウ 論文審査スケジュール

学位論文審査手続きとスケジュールは以下のとおりです。

項目	時期（前後する可能性あり）				内容
	6月修了	9月修了	12月修了	3月修了	
論文審査申請	2月	3月	6月	10月	環境情報学府係へ必要書類を提出
論文提出期間	4月	7月	10月	1月	環境情報学府係へ論文及び必要書類を提出
審査期間	↓ 5月	↓ 8月	↓ 11月	↓ 2月	審査の詳細は担当教員へ確認
教授会による修了認定	6月	9月	12月	3月	—
修了式	6月	9月	12月	3月	学位記授与

学位論文審査に関する手続き方法、正式な日程、提出書類等の詳細は環境情報学府ウェブサイト「環境情報学府書式集」を確認してください。

上記に加え、専攻内での審査手続き（予備審査等）及びスケジュールは指導教員へお問い合わせください。

エ 学位論文評価基準

以下の4つの観点に加えて、博士論文の一部が国内外の審査制の学術専門誌に掲載を認められていることを要件とする。

- ・当該研究領域における関連研究の現状や研究テーマに関連する専門知識を十分理解していること。（専門知識の理解度）
- ・課題の設定及びそれを解決するための方法論の選択並びに仮説構築・検証方法等が妥当であること。（研究方法の妥当性）
- ・関連研究と比較して、新規性があり、当該分野の発展や新規研究分野の開設につながる独創的に貢献する研究成果が得られていること。（研究成果の独創性）
- ・上記3点を第三者が適切に評価できるように論文が構成されており、適切に表現されていること。（論文の構成・表現の適切性）

(2) 科目一覧（後期課程）

科目によって履修条件が課せられている場合があるので、履修登録を行う前に必ずシラバスを確認してください。また、各科目の第1回目の授業において担当教員から履修条件が説明される場合もあるので、担当教員の指示をよく理解した上で、履修登録を行ってください。

専門教育科目の演習及びワークショップの履修順序について、通常、演習は科目名末尾がⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ、Ⅶ、Ⅷの順番で、ワークショップは科目名末尾がⅠ、Ⅱの順番で履修してください。

ワークショップを履修するタームについて、通常、4月に入学した学生は1年次の第5タームにⅠ、2年次の第4タームにⅡを履修し、10月に入学した学生は1年次の第2タームにⅠ、2年次の第1タームにⅡを履修してください。

環境情報イノベーション特別演習については、Ⅰ、Ⅱいずれか又は順番に関らず両方の履修が認められています。

① 学府共通科目

ア 環境情報リテラシー科目

授業科目の名称	教員名	配当年次	単位数		備考
			必修	選択	
イノベーション・マネジメント	周佐喜和, 他	1~3		1	
安心社会のための福祉・医療	中井里史, 他	1~3		1	
持続可能社会とFuture Earth	松田裕之, 他	1~3		1	
自然災害を考える一過去から未来へ	鳴海大典, 他	1~3		1	
社会インフラにおけるリスクと安全	本藤祐樹, 他	1~3		1	
情報学・数理科学の手法	藤井友比呂, 他	1~3		1	
地球科学・生態学の手法	山本伸次, 他	1~3		1	
超スマート社会の構築に向けて	長谷部英一, 他	1~3		1	
最低必要単位数合計			0	1	

イ 環境情報ジェネリックスキル科目

授業科目の名称	教員名	配当年次	単位数		備考
			必修	選択	
環境情報イノベーション特別演習Ⅰ	松本真哉, 他	1~3		1	1単位
環境情報イノベーション特別演習Ⅱ	中本敦浩, 他	1~3		1	以上選択
グローバル化特別演習	各教員	1~3	1		※1
最低必要単位数合計			1	1	

※1 グローバル化特別演習は、ショートビジットや海外インターンシップなどの組み合わせによって単位を認定します。履修にあたっては、その時期や内容について責任指導教員とよく相談して計画を立ててください。

② 専門教育科目

ア 人工環境専攻

授業科目の名称				教員名	配当 年次	単位数		備考
						必 修	選 択	
演習	安全環境工学			安全環境工学特別演習Ⅰ	各教員	1	1	
				安全環境工学特別演習Ⅱ	各教員	1	1	
				安全環境工学特別演習Ⅲ	各教員	1	1	
				安全環境工学特別演習Ⅳ	各教員	1	1	
				安全環境工学特別演習Ⅴ	各教員	2	1	
				安全環境工学特別演習Ⅵ	各教員	2	1	
				安全環境工学特別演習Ⅶ	各教員	2	1	
				安全環境工学特別演習Ⅷ	各教員	2	1	
		環境学		環境学特別演習Ⅰ	各教員	1	1	
				環境学特別演習Ⅱ	各教員	1	1	
				環境学特別演習Ⅲ	各教員	1	1	
				環境学特別演習Ⅳ	各教員	1	1	
				環境学特別演習Ⅴ	各教員	2	1	
				環境学特別演習Ⅵ	各教員	2	1	
				環境学特別演習Ⅶ	各教員	2	1	
				環境学特別演習Ⅷ	各教員	2	1	
			社会環境	社会環境特別演習Ⅰ	各教員	1	1	
				社会環境特別演習Ⅱ	各教員	1	1	
				社会環境特別演習Ⅲ	各教員	1	1	
				社会環境特別演習Ⅳ	各教員	1	1	
			社会環境特別演習Ⅴ	各教員	2	1		
			社会環境特別演習Ⅵ	各教員	2	1		
			社会環境特別演習Ⅶ	各教員	2	1		
			社会環境特別演習Ⅷ	各教員	2	1		
最低必要単位数小計						0	8	
ワーク ショップ	人工環境特別ワークショップⅠ			専攻全教員	1	1		
	人工環境特別ワークショップⅡ			専攻全教員	2	1		
	最低必要単位数小計						2	0
最低必要単位数合計						2	8	

イ 自然環境専攻

授業科目の名称				教員名	配当 年次	単位数		備考	
						必 修	選 択		
	生態学	地球科学	環境学術						
演習	○			生態学特別演習Ⅰ	各教員	1	1		
	○			生態学特別演習Ⅱ	各教員	1	1		
	○			生態学特別演習Ⅲ	各教員	1	1		
	○			生態学特別演習Ⅳ	各教員	1	1		
	○			生態学特別演習Ⅴ	各教員	2	1		
	○			生態学特別演習Ⅵ	各教員	2	1		
	○			生態学特別演習Ⅶ	各教員	2	1		
	○			生態学特別演習Ⅷ	各教員	2	1		
			○		地球科学特別演習Ⅰ	各教員	1	1	
			○		地球科学特別演習Ⅱ	各教員	1	1	
			○		地球科学特別演習Ⅲ	各教員	1	1	
			○		地球科学特別演習Ⅳ	各教員	1	1	
			○		地球科学特別演習Ⅴ	各教員	2	1	
			○		地球科学特別演習Ⅵ	各教員	2	1	
			○		地球科学特別演習Ⅶ	各教員	2	1	
			○		地球科学特別演習Ⅷ	各教員	2	1	
			○		環境学術特別演習Ⅰ	各教員	1	1	
			○		環境学術特別演習Ⅱ	各教員	1	1	
			○		環境学術特別演習Ⅲ	各教員	1	1	
			○		環境学術特別演習Ⅳ	各教員	1	1	
		○		環境学術特別演習Ⅴ	各教員	2	1		
		○		環境学術特別演習Ⅵ	各教員	2	1		
		○		環境学術特別演習Ⅶ	各教員	2	1		
		○		環境学術特別演習Ⅷ	各教員	2	1		
最低必要単位数小計						0	8		
ワーク ショップ				自然環境特別ワークショップⅠ	専攻全教員	1	1		
				自然環境特別ワークショップⅡ	専攻全教員	2	1		
	最低必要単位数小計						2	0	
最低必要単位数合計						2	8		

ウ 情報環境専攻

授業科目の名称			教員名	配当 年次	単位数		備考	
					必 修	選 択		
演習	○	情報学	情報学特別演習Ⅰ	各教員	1		1	
	○		情報学特別演習Ⅱ	各教員	1		1	
	○		情報学特別演習Ⅲ	各教員	1		1	
	○		情報学特別演習Ⅳ	各教員	1		1	
	○		情報学特別演習Ⅴ	各教員	2		1	
	○		情報学特別演習Ⅵ	各教員	2		1	
	○		情報学特別演習Ⅶ	各教員	2		1	
	○		情報学特別演習Ⅷ	各教員	2		1	
		○	数理科学	数理科学特別演習Ⅰ	各教員	1		1
		○		数理科学特別演習Ⅱ	各教員	1		1
		○		数理科学特別演習Ⅲ	各教員	1		1
		○		数理科学特別演習Ⅳ	各教員	1		1
		○		数理科学特別演習Ⅴ	各教員	2		1
		○		数理科学特別演習Ⅵ	各教員	2		1
		○		数理科学特別演習Ⅶ	各教員	2		1
		○		数理科学特別演習Ⅷ	各教員	2		1
		○	情報学術	情報学術特別演習Ⅰ	各教員	1		1
		○		情報学術特別演習Ⅱ	各教員	1		1
		○		情報学術特別演習Ⅲ	各教員	1		1
		○		情報学術特別演習Ⅳ	各教員	1		1
		○		情報学術特別演習Ⅴ	各教員	2		1
		○		情報学術特別演習Ⅵ	各教員	2		1
		○		情報学術特別演習Ⅶ	各教員	2		1
		○		情報学術特別演習Ⅷ	各教員	2		1
	最低必要単位数小計					0		8
	ワーク ショップ			情報環境特別ワークショップⅠ	専攻全教員	1	1	
				情報環境特別ワークショップⅡ	専攻全教員	2	1	
最低必要単位数小計					2		0	
最低必要単位数合計					2		8	

V 社会人学生の履修等に関する特例について

環境情報学府では、入学後も社会人の身分を有する学生（以下「社会人学生」という）に対して、次のように履修等に関する特例を実施しています。

1 長期履修について

長期履修学生とは、職業を有している等の事情により、標準修業年限（前期課程2年、後期課程3年）を超えて一定の期間にわたり計画的に履修して、修了することが認められた学生を指します。

長期履修学生に認定された学生は、一般の学生とは異なり、就学年数に関係なく、標準修業年限分の授業料で修学することができます。

長期履修学生に認定された学生は「長期履修学生在学期間変更願」を環境情報学府係に提出し、承認されることで、一回を限度に在学期間の延長又は短縮をすることができます。ただし標準修了年限未滿に短縮したり、前期課程4年、後期課程6年以上に延長したりすることはできません。

手続きを行う時期は、延長の申請は当初在学期間満了日の3ヶ月以上前、短縮の申請は短縮後の論文審査申請時を原則とします。

在学期間延長が許可された場合、標準修業年限分の授業料から既に納付済みの授業料を差し引いた金額を、延長後の在学期間の年数で除した額を納付することになります。在学期間の短縮が許可された場合、標準修業年限分の授業料から既に納付済みの授業料を差し引いた分を一括で納付することになります。

2 修学について

標準修学年限の年数で修了しようとする学生については、原則として全日通学とします。

標準修学年限の年数で修了に必要な講義等の履修が困難な学生は、指導教員グループ又は指導委員会の指導の下に、修学年限を超える年数（前期課程3～4年、後期課程4～6年）の履修計画書をあらかじめ提出してください。

3 履修について

講義科目については、時間割で指定された曜日・時限に履修する必要がありますが、演習及びワークショップについては開講時間について配慮することができるので、指導教員グループ、指導委員会又は各専攻の学務委員に相談してください。

VI 教務関係諸手続

1 証明書の発行について

証明書の発行方法は、証明書自動発行機での発行又は環境情報学府係への申請の2とおりがあります。それぞれ交付可能な書類が異なりますので下図を参照してください。

(1) 発行方法別発行可能証明書の種類、発行日数

受付窓口等	証明書の種類		発行日数
証明書自動発行機	和文・英文	在学証明書 成績証明書 修了見込証明書	即日
	和文	学生旅客運賃割引証（学割証） 健康診断証明書	
環境情報学府係	和文・英文	修了証明書 在籍証明書	3日後 (休業日を除く)

(2) 注意事項

① 証明書自動発行機での発行の場合

- ・発行時に学生証が必要になります。
- ・設置場所は学生センター、経営学部事務棟、理工学部事務棟の3箇所です。

② 環境情報学府係への申請の場合

- ・環境情報学府係に「証明書交付申請書」がありますので、必要事項を記入の上、提出してください。
- ・受け取り時に、学生証を提示してください。

2 休学、復学、退学、他大学受験について

(1) 休学

- ① 病気、その他の事由により休学を希望する場合は、「横浜国立大学休学許可の基準」に従い、休学願（父母等連署）を提出し、学長の許可を得て休学することができます。（事前に「環境情報学府書式集」からダウンロードし、休学期間開始日の1ヶ月程度前に手続を行ってください。）
- ② 病気のため、修学が不相当だと認められる学生に対しては、休学を命ずることがあります。（学則第50条を参照。）
- ③ 休学を許可され、その休学期間が満了してもなお、その理由が消滅しない学生は、更に期間の延長を願い出ることができます。（期間を延長する場合は、あらかじめ環境情報学府係に申し出て用紙の交付を受け、休学期間満了日の1ヶ月程度前に延長の手続を行ってください。）
- ④ 休学期間は、在学期間に算入されません。
- ⑤ 休学期間は、通算して前期課程にあつては2年、後期課程にあつては3年を超えることができません。

《参考》横浜国立大学休学許可の基準（最近改正 平成 27 年 12 月 16 日）

第 1 横浜国立大学学則(以下「学則」という。)第 50 条第 4 項の規定に基づく休学の許可は、次の各号のいずれかに該当し、引き続き 3 か月以上欠席を要する者について許可するものとする。

- (1) 本人の疾病又は負傷のとき。(医師の診断書を必要とする。)
- (2) 本人の出産又は本人の子(法律上の養子を含む。)が 3 歳に達する日を限度として育児に従事するとき。(出産に関する医師の診断書等を必要とする。)
- (3) 学資の支弁が困難なとき。(理由書及び事実を証明する書類を必要とする。)
- (4) 世帯主その他の死亡等により一時的に家業に従事するとき。(理由書及びそれを証明する書類を必要とする。)
- (5) 家族を看病又は介護するとき。(看病については理由書及びそれを証明する医師の診断書を必要とする。介護については理由書及び証明書を必要とする。)
- (6) 勤務の都合のとき。(勤務先の証明書を必要とする。)
- (7) 外国の大学、短期大学又は大学院で学修することが教育上有益と認められたとき。(学修先の大学、短期大学又は大学院について証明する書類及び学修内容の書類を必要とする。)
- (8) その他教授会においてやむを得ない理由があると認めたとき。(理由を証明する書類を必要とする。)

第 2 学則第 51 条第 2 項及び横浜国立大学大学院学則第 22 条第 3 項に規定する理由は、前項第 2 号に限るものとする。

(2) 復学

- ① 休学期間中にその事由が消滅したときは、学長の許可を得て復学することができます。(事前に「環境情報学府書式集」からダウンロードし、復学日の 1 ヶ月程度前に手続を行ってください。)
- ② 復学した学生は、復学の際に月割計算によるその期の授業料を納入しなければなりません。

(3) 退学

- ① 退学しようとする学生は、退学願(父母等連署)に詳細な理由書を添えて願い出て、学長の許可を得て退学することができます。(事前に環境情報学府係に申し出て、用紙の交付を受け、退学日の 1 ヶ月程度前に手続を行ってください。)
- ② 退学する場合は、その期の授業料を納入していなければなりません。
- ③ 退学する学生は、学生証等を返納しなければなりません。

(4) 他大学受験

- ① 他大学を受験しようとする学生(博士課程前期では 1 年次、博士課程後期では 1・2 年次のみ)は、他大学受験願を提出し、環境情報学府長の許可を得て他大学を受験することができます。(事前に環境情報学府係に申し出て、用紙の交付を受け、受験日の 1 ヶ月程度前に手続を行ってください。)
- ② 他大学受験許可書の発行については、申請をしてから約 1 ヶ月程度かかるので、余裕を持って申請してください。
- ③ 他大学受験に合格した場合は、速やかに退学の手続きをとってください。

3 諸届出について

(1) 学務部教務企画課への届出書類

手続書類	期間・期限	添付書類
父母等連絡人変更届	事由が発生したとき	
父母等連絡人住所変更届	事由が発生したとき	
転籍・改姓及び改名届	事由が発生したとき	戸籍抄本
旧姓使用・旧姓併記届	事由が発生したとき	戸籍抄本
学生住所変更届	事由が発生したとき	
本籍変更届	事由が発生したとき	

(2) 環境情報学府係への届出書類

① 海外渡航届

本学の学生が海外渡航を行う場合（外国人留学生で、一時帰国をする場合も含む）、「海外渡航届」を必ず提出してください。渡航先で重大な災害・事件・事故が起きた場合に安否確認を行う必要があるためです。

原則として渡航する1週間前までに提出してください。

※書式は「環境情報学府書式集」よりダウンロードすることができます。

VII 教員連絡先一覧

1 専任教員（50音順）

教員名	研究室	オフィスアワー (曜日・時間)	内線 番号	メールアドレス
雨宮 隆 アメミヤ タカシ	総合研究棟 E 603 号室	木曜日 16:30-18:00	4353	amemiya-takashi-jk@ynu.ac.jp
荒牧 賢治 アラマキ ケンジ	環境情報 1 号棟 503 号室	木曜日 14:40-16:10	4300	aramaki-kenji-cr@ynu.ac.jp
安藤 孝敏 アンドウ タカトシ	教育学部第 3 研究棟 710 号室	木曜日 5 限	3270	takatoshi-ando-vf@ynu.ac.jp
伊豆 友一朗 イズ ヨイチロウ	化工・安工棟 401 室	火曜日 16:15-17:45	3981	izato-yuichiro-tk@ynu.ac.jp
伊藤 暁彦 イト アキヒコ	環境情報 1 号棟 410 室	月曜日 17:00-18:00	3354	ito-akihiko-xr@ynu.ac.jp
牛越 恵理佳 ウシゴシ エリカ	-	-	4210	-
遠藤 聡 エンドウ アキラ	総合研究棟 S 502 号室	-	-	endo-akira-hx@ynu.ac.jp
友川 敬貴 ユカワ ヒロキ	環境情報 4 号棟 314 号室	木曜日 3 限 (要メール予約)	4333	oikawa-hiroki-nm@ynu.ac.jp
大谷 英雄 オオタニ ヒデオ	化工・安工棟 304 室	水曜日 4 時限	-	ohtani-hideo-hc@ynu.ac.jp
大谷 裕之 オオタニ ヒロユキ	教育学部第 2 研究棟 408 号室	火曜日 5 限	3364	otani-hiroyuki-gn@ynu.ac.jp
大矢 勝 オオヤ マサル	総合研究棟 S 108 号室	火・水曜日 12:00-13:00	3301	moya@ynu.ac.jp
岡 泰資 オカ ヤスシ	化工・安工棟 303 室	月曜日 10:30-12:00	-	oka-yasushi-tv@ynu.ac.jp
岡嶋 克典 オカジマ カクノリ	総合研究棟 E 404 号室	水曜日 14:30-17:00	4432	okajima@ynu.ac.jp
小関 健太 オゼキ ケンタ	教育学部第 2 研究棟 302 室	火曜日 4 限	3414	ozeki-kenta-xr@ynu.ac.jp
鏡味 麻衣子 カガミ マイコ	環境情報 3 号棟 305 号室	随時 (要メール予約)	4379	kagami-maiko-bd@ynu.ac.jp
笠井 高哉 カサイ ナオヤ	化工・安工棟 203 室	月曜日 10:00-16:00	3979	kasai-naoya-pf@ynu.ac.jp
亀屋 隆志 カメヤ タカシ	総合研究棟 S 411 号室	火曜日 4 - 5 限	4190	kameya-takashi-px@ynu.ac.jp
菊池 知彦 キクチ トモヒコ	教育学部第 3 研究棟 511 号室	水曜日 18:00-19:00	-	kikuchi-tomohiko-bk@ynu.ac.jp
熊崎 美枝子 クマサキ ミエコ	化工・安工棟 302 室	火曜日 13:00-17:00	-	kumasaki-mieko-pd@ynu.ac.jp

教員名	研究室	オフィスアワー (曜日・時間)	内線 番号	メールアドレス
小池 文人	環境情報 4 号棟 304 号室	金曜日 13:00-14:00	4356	koike-fumito-nx@ynu.ac.jp
小林 剛	総合研究棟 E 406 室	木曜日 4-5 限	3775	kobayashi-takeshi-bj@ynu.ac.jp
酒井 暁子	環境情報 3 号棟 208 号室	月～金曜日 13:00-18:00	4361	sakai-akiko-xw@ynu.ac.jp
佐々木 雄大	環境情報 4 号棟 315 号室	随時 (要メール予約)	3596	sasaki-takehiro-kw@ynu.ac.jp
四方 順司	総合研究棟 S 202-2 号室	水曜日 14:00-17:00	4340	shikata-junji-rb@ynu.ac.jp
志田 基与師	総合研究棟 S 507 号室	火曜日 16:15-17:45	3426	shida-kiyoshi-xr@ynu.ac.jp
下出 信次	教育学部第 3 研究棟 415 号室/(真鶴)臨海 環境センター	水曜日 16:15-17:45	3442	shimode@ynu.ac.jp
白石 俊彦	環境情報 1 号棟 213 号室	金曜日 16:15-17:45	4092	shiraishi-toshihiko-fd@ynu.ac.jp
白川 真一	総合研究棟 S 202-4 号室	設定なし	4159	shirakawa-shinichi-bg@ynu.ac.jp
鈴木 淳史	環境情報 1 号棟 512 号室	随時 (要メール予約)	3846	asuzuki@ynu.ac.jp
田中 良巳	環境情報 1 号棟 504 号室	随時 (要メール予約)	4307	tanaka-yoshimi-vm@ynu.ac.jp
田村 直良	総合研究棟 S 601 号室	木曜日 13:30-15:00	4161	-
富井 簡志	総合研究棟 S 403 号室	火曜日 14:30-17:00	4118	tommy@ynu.ac.jp
中井 里史	環境情報 4 号棟 206 号室	随時 (要メール予約)	4364	nakai-satoshi-dc@ynu.ac.jp
長尾 智晴	総合研究棟 S 401 号室	水・木・金曜日 12:00-13:00	4131	nagao@ynu.ac.jp
中村 達夫	総合研究棟 S 704-3 号室	金曜日 14:40-16:10	-	nakamura-tatsuo-tj@ynu.ac.jp
中本 敦浩	教育学部第 2 研究棟 301 号室	月曜日 16:15-17:45	3384	nakamoto-atsuhiko-hc@ynu.ac.jp
鳴海 大典	総合研究棟 S 510 号室	木曜日 10:00-17:00	3719	narumi-daisuke-rs@ynu.ac.jp
西村 尚史	環境情報 1 号棟 701 室	月曜日 12:00~13:00 (要メール予約)	3379	nishimura-takashi-yx@ynu.ac.jp
額田 順二	教育学部第 2 研究棟 614 号室	月曜日 16:15-17:45	3386	-
根上 圭也	教育学部第 2 研究棟 613 号室	木曜日 16:30-18:00	3373	negami-seiya-vj@ynu.ac.jp
野口 和彦	環境情報 1 号棟 510 号室	-	-	noguchi-kazuhiko-xg@ynu.ac.jp

教員名	研究室	オフィスアワー (曜日・時間)	内線 番号	メールアドレス
野間 淳	教育学部第2研究棟 606号室	木曜日 16:15-17:45	3380	noma@ynu.ac.jp
長谷部 英一	教育学部第1研究棟 212号室	水曜日 16:15-17:45	-	hasebe-eiichi-gs@ynu.ac.jp
平塚 和之	総合研究棟S 704-1号室	水曜日 13:00-14:30 (要メール予約)	4413	hiratsuka-kazuyuki-pz@ynu.ac.jp
藤井 友比呂	総合研究棟S 104室	水曜日 4限 (要メール予約)	3282	fujii-tomohiro-xg@ynu.ac.jp
藤井 麻樹子	環境情報4号棟 104室	随時 (要メール予約)	4207	fujii-makiko-jd@ynu.ac.jp
本田 清	総合研究棟E 505室	金曜日 12:00-13:30	3967	honda-kiyoshi-rb@ynu.ac.jp
本藤 祐樹	総合研究棟E 304室	火曜日 13:30-15:00	-	hondo-hiroki-kc@ynu.ac.jp
間嶋 隆一	教育学部別棟 104室	火曜日 15:00-16:30	3349	majima-ryuichi-ym@ynu.ac.jp
松井 和己	総合研究棟S 608号室	月曜日 16:30-18:00	4344	kzm@ynu.ac.jp
松田 裕之	環境情報4号棟 105号室	随時 (要メール予約)	4362	matsuda-hiroyuki-vj@ynu.ac.jp
松宮 正彦	教育学部第2研究棟 207室	木曜日 16:15-17:45	3464	matsumiya-masahiko-dh@ynu.ac.jp
松本 真哉	教育学部第2研究棟 419号室	火曜日 16:30-18:00	3366	matsumoto-shinya-py@ynu.ac.jp
松本 勉	環境情報1号棟 703号室	月・木曜日 10:30-12:00	4133, 4134	tsutomu@ynu.ac.jp
三宅 淳巳	化工・安工棟 404室	火曜日 15:00-18:00	3993	miyake-atsumi-wp@ynu.ac.jp
宮崎 隆	教育学部第1研究棟 321号室	火曜日 16:15-17:45	3440	tamiyaza@ynu.ac.jp
森 辰則	総合研究棟S 603号室	木曜日 14:40-16:10	4132	mori@forest.eis.ynu.ac.jp
安本 雅典	総合研究棟S 508号室	火曜日 14:30-16:00 (要メール予約)	-	yasumoto-masanori-ky@ynu.ac.jp
山田 貴博	総合研究棟S 605号室	木曜日 16:15-17:45	3864	-
山本 伸次	環境情報4号棟 305室	10:00-18:00	4498	yamamoto-shinji-sp@ynu.ac.jp
吉岡 克成	環境情報1号棟 910室	水曜日 10:00-12:00	3690	yoshioka@ynu.ac.jp
和仁 良二	教育学部第2研究棟 107号室	火曜日 14:40-16:10	-	-

※ オフィスアワーとは、教員が学業等の相談に応じるために、研究室等で待機している時間帯です。

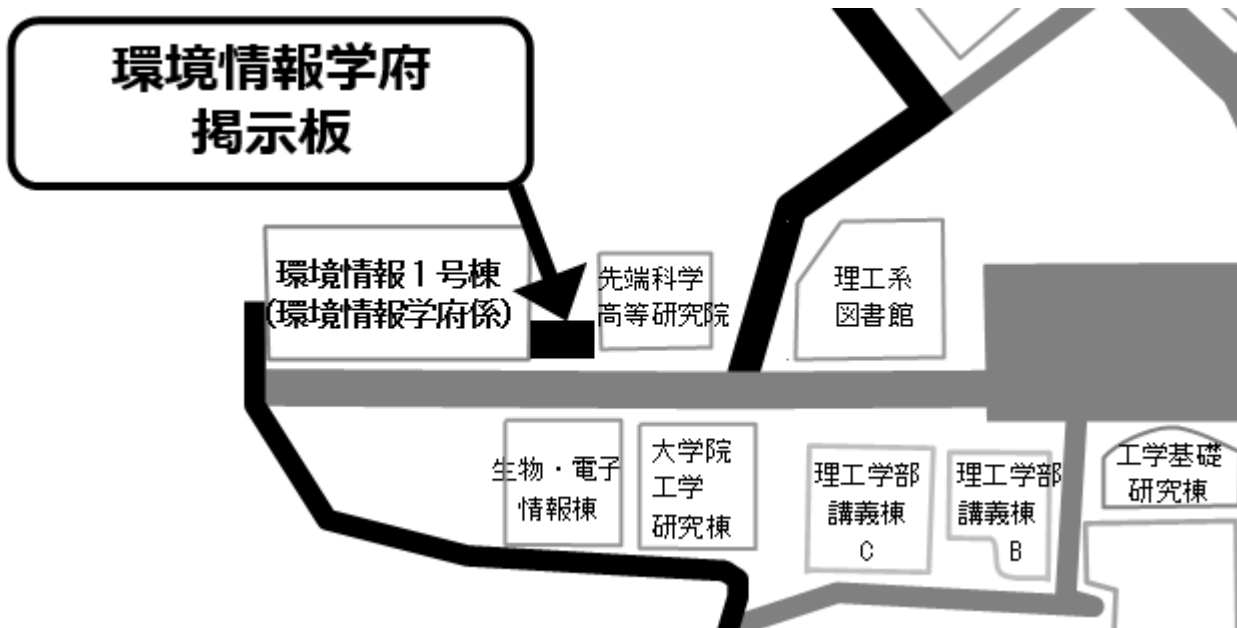
※ 内線番号はダイヤルイン番号の下4桁と共通になっています。
045(339)××××(ダイヤルイン番号)

2 非常勤講師

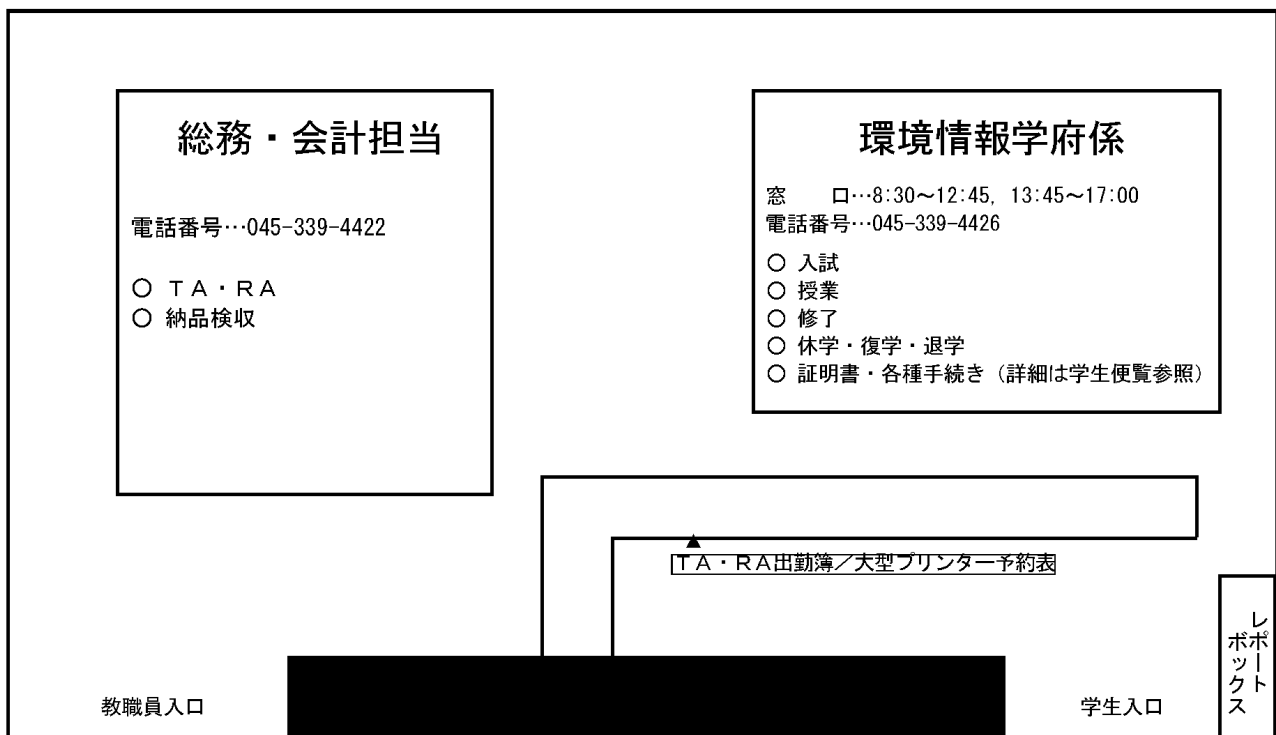
教員名	本務先等	電話番号	メールアドレス
カネコ ノブヒロ 金子 信博	〒960-1248 福島県福島市金谷川1 国立大学法人福島大学農学群食農学類	-	kaneko-nobuhiro@agri.fukushima-u .ac.jp

VIII 地図

1 環境情報1号棟1階掲示板



2 環境情報1号棟2階事務室



3 環境情報1号棟 3階講義室・ゼミ室

通常収容人数(最大人数)

					EV	院長室		310 20人 (30人)	311 8人 (10人)	312 8人 (14人)	313 (教員室)	
304 10人 (17人)	303 10人 (11人)	302 10人 (12人)	301 20人 (30人)	×			トレ	316 大会議室 32人	315 30人 (45人)	314 30人 (45人)		
305 66人 (99人)			306 30人 (45人)		307 (教員室)		1号棟515室 …80人 (合同セミナー室) 3号棟101室 …60人 4号棟101室 …8人(16人)					

～講義室・ゼミ室の利用について～

- 1, 講義室・ゼミ室を利用する場合は、事前に予約する必要があります。
- 2, プロジェクターを使用する場合は備品庫の鍵を、1号棟316、515号室、3号棟101号室、4号棟101号室を使用する場合は部屋の鍵を貸し出しますので、環境情報学府係へお越しく下さい。ベル・レーザーポインターを使用する場合はそのまま貸し出します。
- 3, 使用後は原状回復し、照明・空調の電源を切ってから退室してください。
- 4, 講義室・ゼミ室の使用に関する問い合わせのみ、お昼休み(12:45~13:45)も受け付けます。17:00以降に鍵を返却する場合は教職員入口扉のポストに入れてください。

